

学生確保の見通し等を記載した書類 資料

目次

資料1「設置構想についてのアンケート調査」報告書	2
資料2「設置構想についてのアンケート調査」報告書	65
資料3「設置構想に係る人材需要アンケート調査」報告書	97

埼玉大学大学院人文社会科学研究科
ダイバーシティ科学専攻（修士課程）

「設置構想についてのアンケート調査」報告書

令和6年12月17日

埼玉大学大学院人文社会科学研究科

埼玉大学大学院人文社会科学研究科
ダイバーシティ科学専攻（修士課程）

目次

I	調査の概要	4
II	埼玉大学学部生へのアンケート調査	
1	全質問項目の集計結果	5
2	集計結果のポイント	12
III	社会人・他大学生へのアンケート調査	
1	全質問項目の集計結果	25
2	集計結果のポイント	33
添付資料		
1	埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）〔仮称、令和8年4月設置構想中〕 アンケート調査 【対象：埼玉大学学部生】	46
2	埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）〔仮称、令和8年4月設置構想中〕 アンケート調査 【対象：社会人・他大学生】	54

I 調査の概要

- ◆ 調査目的 : 本調査は、埼玉大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）が令和8年4月設置に向けて構想中の「ダイバーシティ科学専攻（仮称）」の学生確保の見通しを、アンケート調査を用いて測ることを目的とする。
- ◆ 調査期間 : 令和6年9月～10月
- ◆ 調査対象 : 調査対象① 埼玉大学学部生（1年生～4年生）
2024年度現在、埼玉大学に在籍している正規学部生1～4年生6,813人を対象とした。

調査対象② 社会人と他大学生
アンケート委託先（GMOリサーチ＆AI株式会社）協力のもと、18歳以上、大学卒（卒業見込みの者含む）の3,203人の中から、大学で学ぶこと（学び直すこと）に興味がある首都圏（1都7県）に在勤、在学、在住と回答した1,028人を本調査の対象とした。
- ◆ 調査方法 : 調査対象① 埼玉大学LMSを使用し、全学部生（6,813人）を対象に掲示板機能を活用してアンケートフォームのURLを周知するとともに、各自のメールアドレスへも同内容を周知し、オンライン調査を実施。

調査対象② アンケート委託先（GMOリサーチ＆AI株式会社）が保有するパネル（3,203人）のメールアドレスにアンケートを配信し、オンライン調査を実施した。
- ◆ 調査内容 : 調査対象① アンケート項目は全12問の選択式とし、主な内容は次のとおりである。
 - 回答者の基本情報
 - ダイバーシティ科学専攻への評価
 - ダイバーシティ科学専攻への受験意向及び入学意向
調査対象② アンケート項目は全16問の選択式とし、主な内容は次のとおりである。
 - 回答者の基本情報
 - ダイバーシティ科学専攻への評価
 - ダイバーシティ科学専攻への受験意向及び入学意向
- ◆ 有効回答件数 : 調査対象① 埼玉大学学部生 380人
調査対象② 社会人・他大学生 1,028人

II 埼玉大学学部生へのアンケート調査

1 全質問項目の集計結果

Q1.性別

選択項目	N	%
Base	380	100.0
男性	180	47.4
女性	192	50.5
その他	8	2.1

Q2.学部

選択項目	N	%
Base	380	100.0
教養学部	81	21.3
経済学部	45	11.8
教育学部	148	38.9
理学部	38	10.0
工学部	68	17.9

Q3.学年

選択項目	N	%
Base	380	100.0
1 年生	124	32.6
2 年生	96	25.3
3 年生	80	21.1
4 年生	80	21.1

Q4.卒業後の進路をどのように考えていますか。（複数選択可）

※複数回答項目のため、回答数は380人の延べ数

※各構成比＝回答数÷430

選択項目	N	%
Base	430	100.0
大学院（修士課程・博士前期課程）	130	30.2
専門職大学院	5	1.2
専門学校	3	0.7
就職	242	56.3
未定	50	11.6

Q5.4で「大学院（修士課程・博士前期課程）」、「専門職大学院」を選択した方に質問です。志望する大学院の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）

※複数回答項目のため、回答数は問4で「大学院（修士課程・博士前期課程）」及び「専門職大学院」と回答した135人の延べ数

※各構成比＝回答数÷159

選択項目	N	%
Base	159	100.0
国立	137	86.2
公立	14	8.8
私立	8	5.0

Q6.4で「専門学校」、「就職」、「未定」を選択した方に質問です。環境（経済的環境、学習環境、家族の理解等）が整えば大学院へ進学したいですか。

※問4は複数回答のため「専門学校」、「就職」、「未定」と回答した295人と一致しない。

選択項目	N	%
Base	255	100.0
進学したい	75	29.4
進学したくない	93	36.5
未定	87	34.1

Q7.大学卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

※複数回答項目のため、回答数は380人の延べ数

※各構成比＝回答数÷380

選択項目	N	%
文学	47	12.4
史学	48	12.6
哲学	61	16.1
法学・政治学	59	15.5
商学・経済学	63	16.6
社会学	85	22.4
数学	25	6.6
物理学	19	5.0
化学	27	7.1
生物	33	8.7
地学	16	4.2
機械工学	24	6.3
電気通信工学	26	6.8
土木・建築工学	33	8.7
応用化学	16	4.2
家政学	16	4.2
教育学	122	32.1
教員養成	64	16.8
多文化共生学	44	11.6
ジェンダー社会科学	51	13.4
クィア・スタディーズ	14	3.7
障害学	28	7.4
環境学	39	10.3
災害学	25	6.6
組織論	21	5.5
その他	45	11.8

Q8人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。該当するもの1つを選択してください。

様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明する方法を獲得するための基礎理論を統合的に学修することができる。

選択項目	N	%
Base	380	100.0
とても魅力を感じる	88	23.2
ある程度魅力を感じる	218	57.4
あまり魅力を感じない	67	17.6
まったく魅力を感じない	7	1.8

様々な分野・領域において、DEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）（以下、「DEI」）の視点からどのような課題が提起され、どのようなDEI実現の実践がなされてきたのかを探求し、自らの学問領域・研究分野、社会、文化、個別環境における課題発見につなげる実践的な学知を修得することができる。

選択項目	N	%
Base	380	100.0
とても魅力を感じる	80	21.1
ある程度魅力を感じる	194	51.1
あまり魅力を感じない	93	24.5
まったく魅力を感じない	13	3.4

実践学としてのダイバーシティ科学における課題の抽出とその分析、解決策の探求において必須の調査スキルを修得することができる。

選択項目	N	%
Base	380	100.0
とても魅力を感じる	96	25.3
ある程度魅力を感じる	194	51.1
あまり魅力を感じない	78	20.5
まったく魅力を感じない	12	3.2

それぞれのディシプリン（専門基礎）の専門性・体系性を DEI の視点からその課題を共同的に検討し、フィールドワークを通して実践的課題の分析能力と課題解決に向けた応用能力を修得することができる。

選択項目	N	%
Base	380	100.0
とても魅力を感じる	92	24.2
ある程度魅力を感じる	198	52.1
あまり魅力を感じない	75	19.7
まったく魅力を感じない	15	3.9

学生の主体性を重視した報告と討論を中心とした共同的な学びを展開し、それぞれの専門分野における DEI 課題の探求・研究課題を明確にし、研究成果を修士論文、特定課題レポートにまとめることができる。

選択項目	N	%
Base	380	100.0
とても魅力を感じる	77	20.3
ある程度魅力を感じる	186	48.9
あまり魅力を感じない	105	27.6
まったく魅力を感じない	12	3.2

多様な他者（教員・学生・国内外の研究者や外部機関関係者等）とのディスカッション等を通して、社会への関心と協働性を修得できる。

選択項目	N	%
Base	380	100.0
とても魅力を感じる	145	38.2
ある程度魅力を感じる	175	46.1
あまり魅力を感じない	48	12.6
まったく魅力を感じない	12	3.2

研究指導教員及び副研究指導教員から、きめ細かな研究指導を受けることができる。

選択項目	N	%
Base	380	100.0
とても魅力を感じる	164	43.2
ある程度魅力を感じる	168	44.2
あまり魅力を感じない	40	10.5
まったく魅力を感じない	8	2.1

インターネット配信を用いたライブ会議システム等により、大学以外での場所から履修相談・指導、個別相談・指導を受けることができる。

選択項目	N	%
Base	380	100.0
とても魅力を感じる	132	34.7
ある程度魅力を感じる	182	47.9
あまり魅力を感じない	57	15.0
まったく魅力を感じない	9	2.4

Q9.人文社会科学研究科にダイバーシティ科学専攻（仮称）が開設された場合、受験しますか。

選択項目	N	%
Base	380	100.0
第一志望として受験する	16	4.2
第二志望として受験する	37	9.7
第三志望以降として受験する	43	11.3
受験しない	284	74.7

Q10.9で「第一志望として受験する」、「第二志望として受験する」、「第三志望として受験する」を選択した方に質問です。受験して合格した場合、入学しますか。

選択項目	N	%
Base	96	100.0
入学する	25	26.0
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	65	67.7
入学しない	6	6.3

Q11.10で「入学する」、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した方に質問です。人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）で修士課程を修了した場合、博士後期課程への進学を希望しますか。

選択項目	N	%
Base	90	100.0
①進学を希望する	18	20.0
②進学を希望しない	28	31.1
③未定	44	48.9

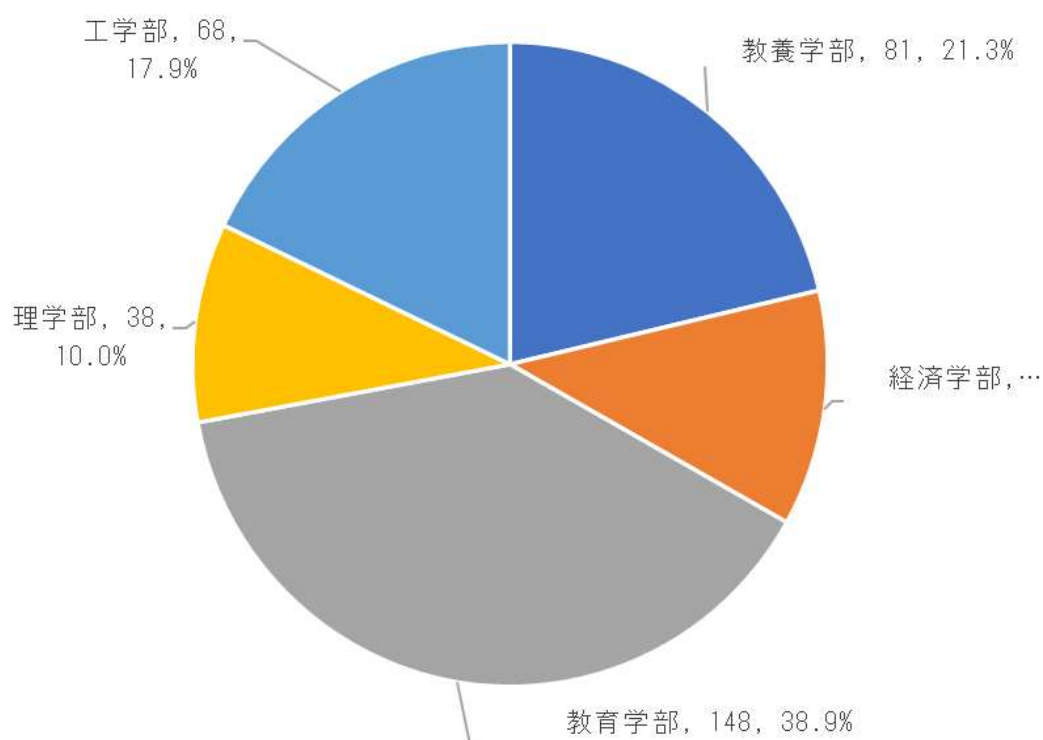
2 集計結果のポイント

※「％」はいずれも小数点第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも100％と一致しない。

3年生の回答は80人

回答者の属性を問うQ1、Q2では、教育学部が148人（38.9％）、教養学部81人（21.3％）、工学部68人（17.9％）、経済学部45人（11.8％）、理学部38人（10.0％）から回答があり、令和8年にストレートマスターとして入学者が期待できる3年生の回答は80人（21.1％）であった。

グラフ 学部（Q2）



グラフ 学年 (Q3)

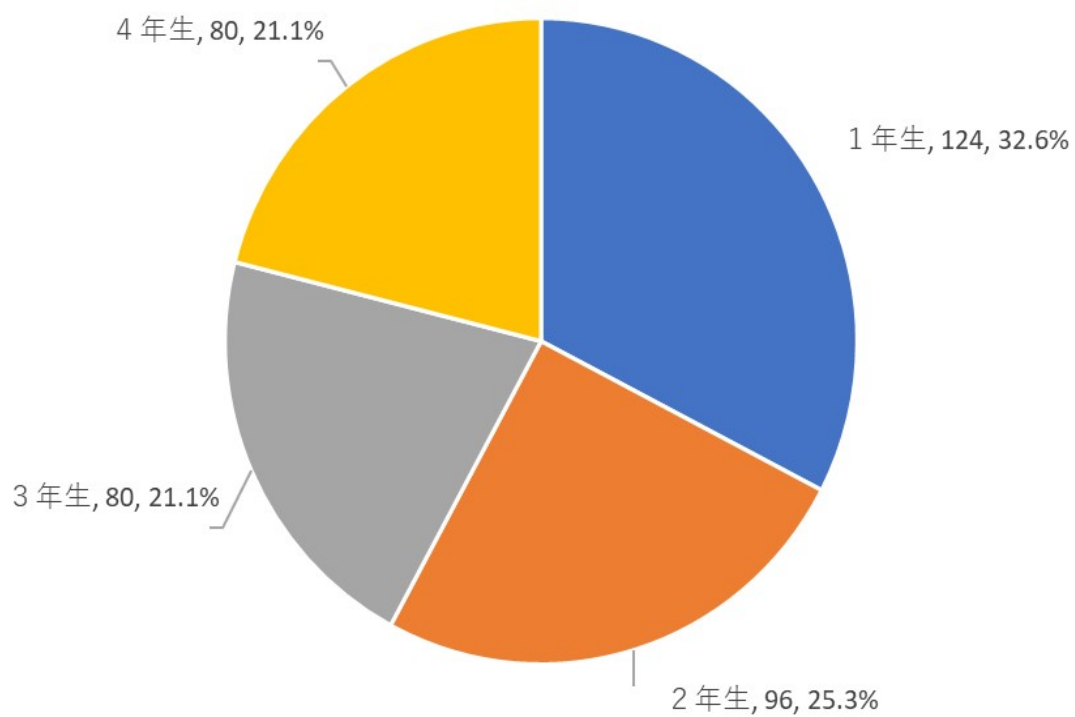


表 学部 (Q2) × 学年 (Q3)

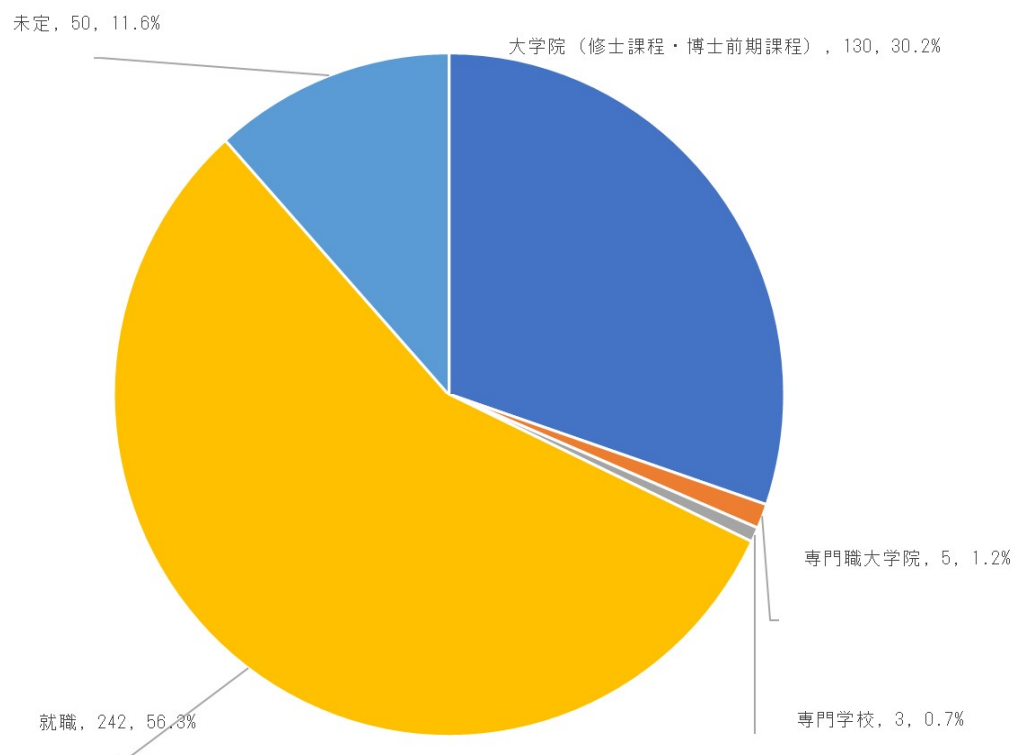
学部 \ 学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
教養学部	27	14	20	20
経済学部	9	19	5	12
教育学部	47	48	32	21
理学部	17	4	3	14
工学部	24	11	20	13

大学院（修士課程・博士前期課程）への進学希望は3割

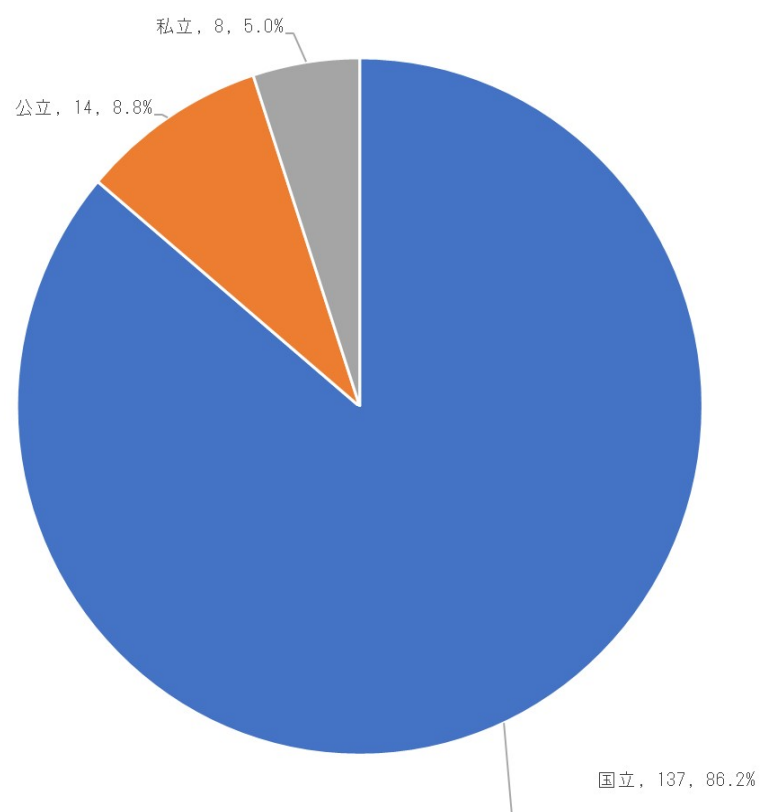
卒業後の進路について、就職と回答した学生者は242人（56.3%）が最も多く、大学院（修士課程・博士前期課程）と回答した者は130人（30.2%）であった。

また、志望する大学院の設置者について国立を希望する回答が137人（86.2%）であった。

グラフ 回答者の卒業後の進路（Q4）



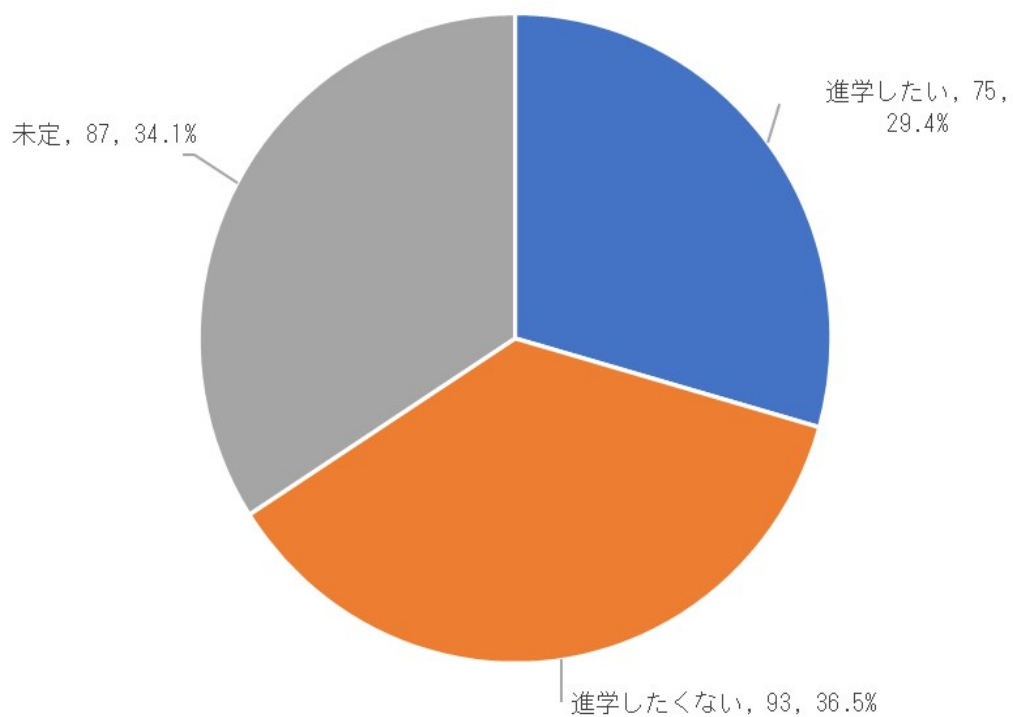
グラフ 志望する大学院の設置者 (Q5)



大学院へ「進学したい」と75人が回答

学部卒業後の進路をたずねるQ4で「専門学校」、「就職」、「未定」を選択した者のうち、75人（29.4%）が環境（経済的環境、学習環境、家族の理解等）が整えば大学院へ「進学したい」と回答した。

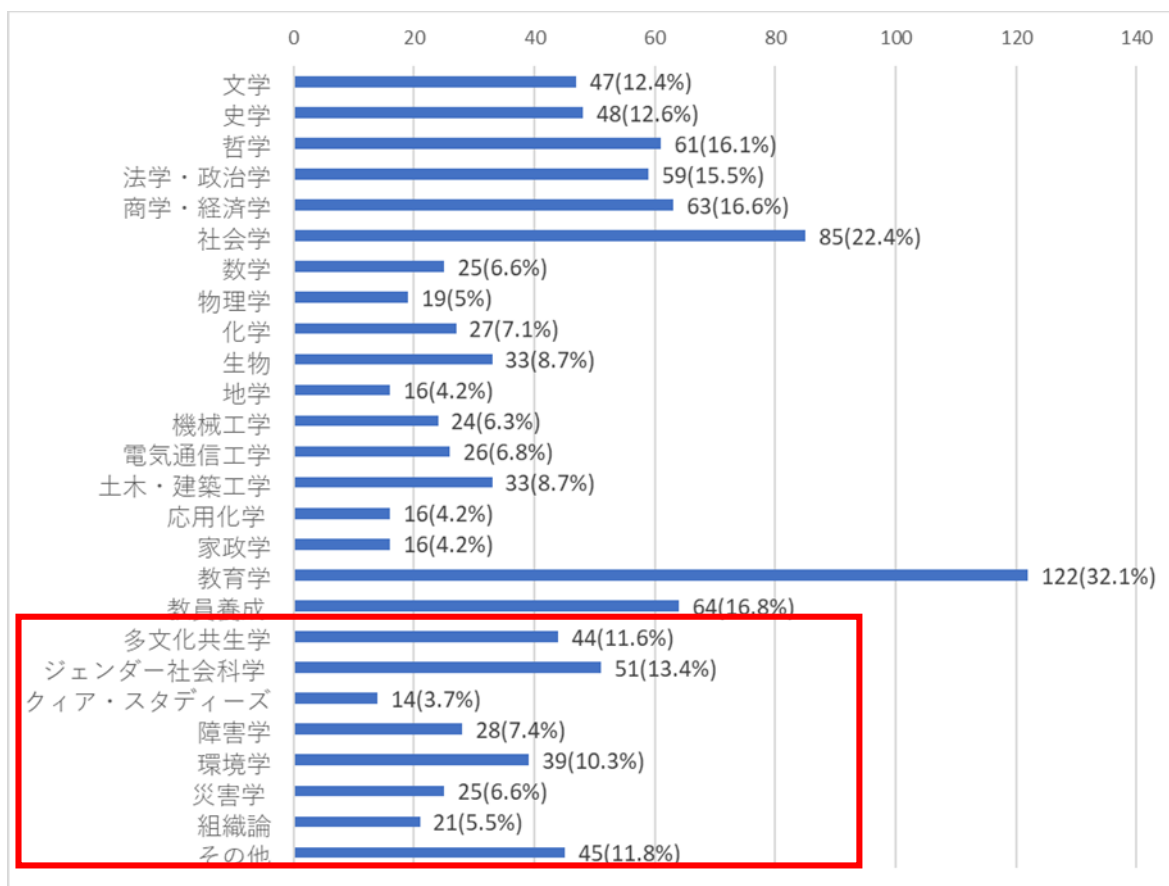
グラフ 環境整備を前提条件とした大学院への進学意向（Q6）



ダイバーシティ科学に関連する学問分野への興味があると222人が回答

学びたいと考えている興味のある学問分野をたずねるQ7の回答結果では、ダイバーシティ科学に深く関連する「多文化共生学」に44人（11.6%）、「ジェンダー社会科学」に51人（13.4%）、「クィア・スタディーズ」に14人（3.7%）、「障害学」に28人（7.4%）、「環境学」に39人（10.3%）、「災害学」に25人（6.6%）、「組織論」に21人（5.5%）の計222人の回答を得た。

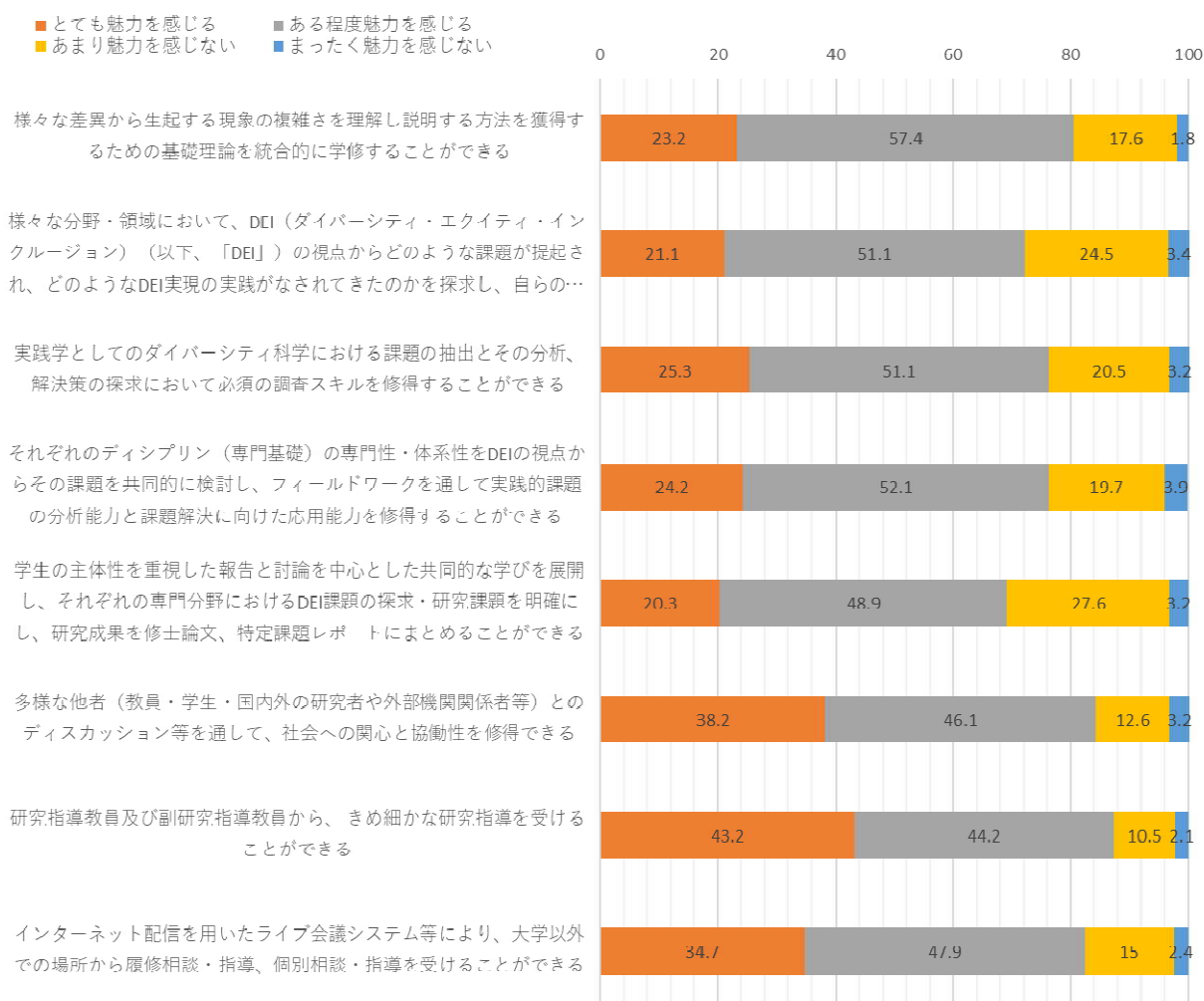
グラフ 学びたいと考えている興味のある学問分野（Q7）



ダイバーシティ科学専攻の特色について魅力を感じる回答者は6割以上

本専攻の特色についてたずねるQ8の回答結果では、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した者が、すべての項目において6割を超える結果となった。

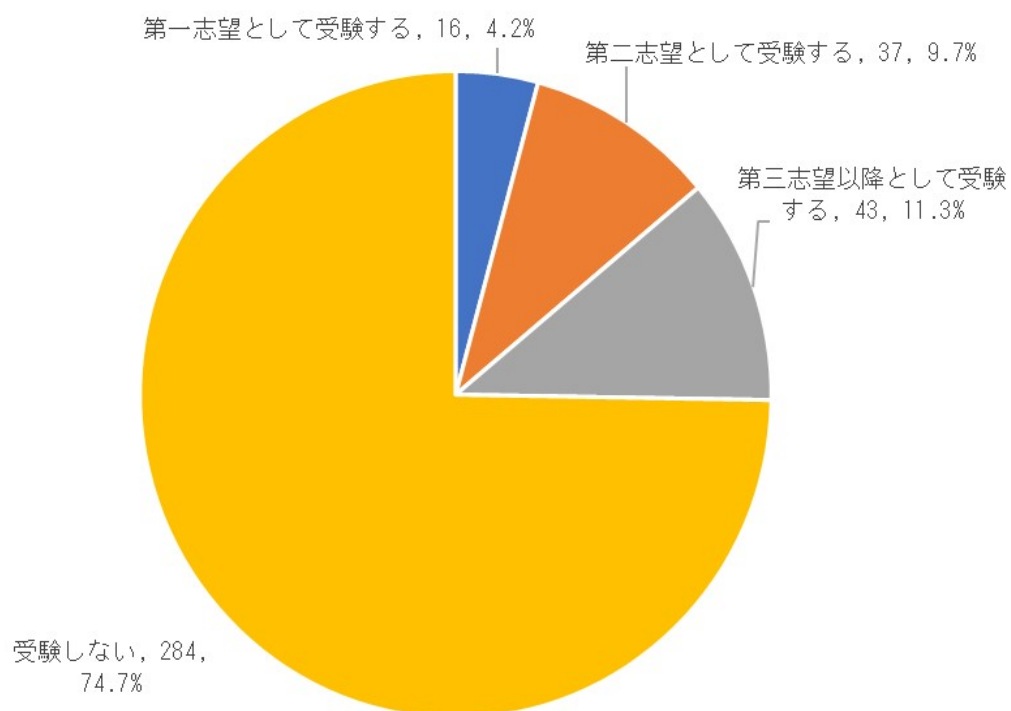
グラフ ダイバーシティ科学専攻の特色について（Q8）



10名の入学定員に対し、25人が入学意向を示す

受験意向をたずねるQ9の回答結果では、回答者380人のうち16人（4.2％）がダイバーシティ科学専攻が開設された場合、「第一志望として受験する」と回答した。

グラフ 受験意向（Q9）



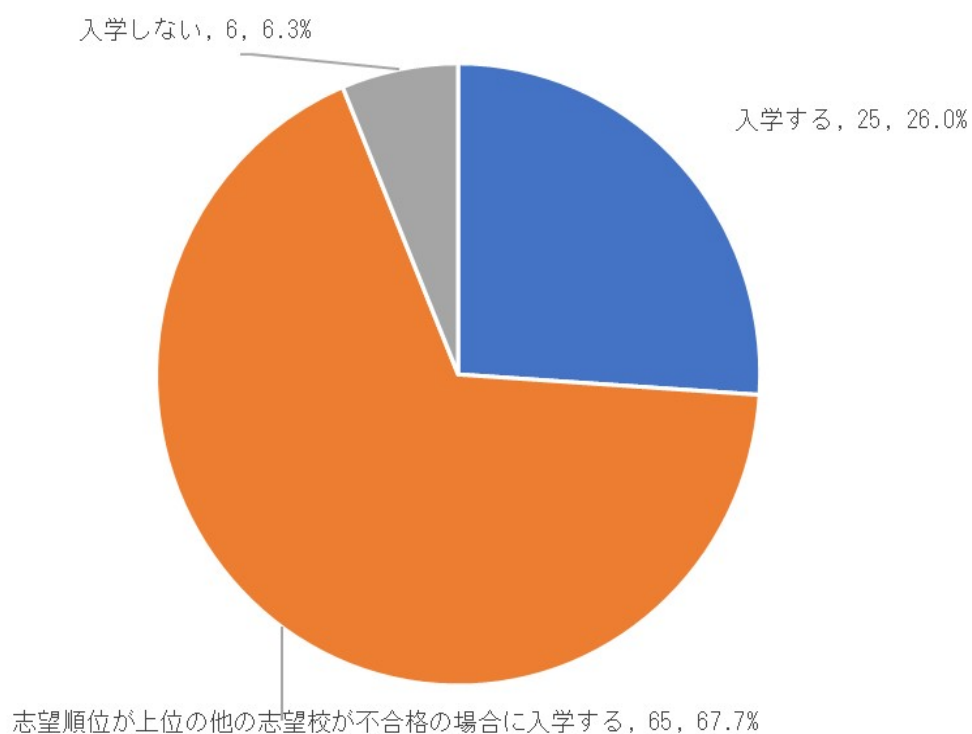
また、「第一志望として受験する」と回答した16人について、回答者の学年（Q3）とクロス集計した結果、「1年生」2人（12.5%）、「2年生」5人（31.3%）、「3年生」6人（37.5%）、「4年生」3人（18.8%）となった。

表 回答者の現在の状況（Q3）×受験意向（Q9）

選択項目	N	%
1 年生	2	12.5
2 年生	5	31.3
3 年生	6	37.5
4 年生	3	18.8

受験意向をたずねるQ9において「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望として受験する」と回答した96人について、受験して合格した場合の入学の意向をたずねたところ、25人（26.0％）が「入学する」、65人（67.7％）が「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した。

グラフ 入学意向（Q10）



入学意向をたずねるQ10において「入学する」と回答した25人について、回答者の学年（Q3）とクロス集計した結果、「4年生」7人（28.8%）、「3年生」8人（32.0%）、「2年生」7人（28.0%）、「1年生」3人（12.0%）となった。

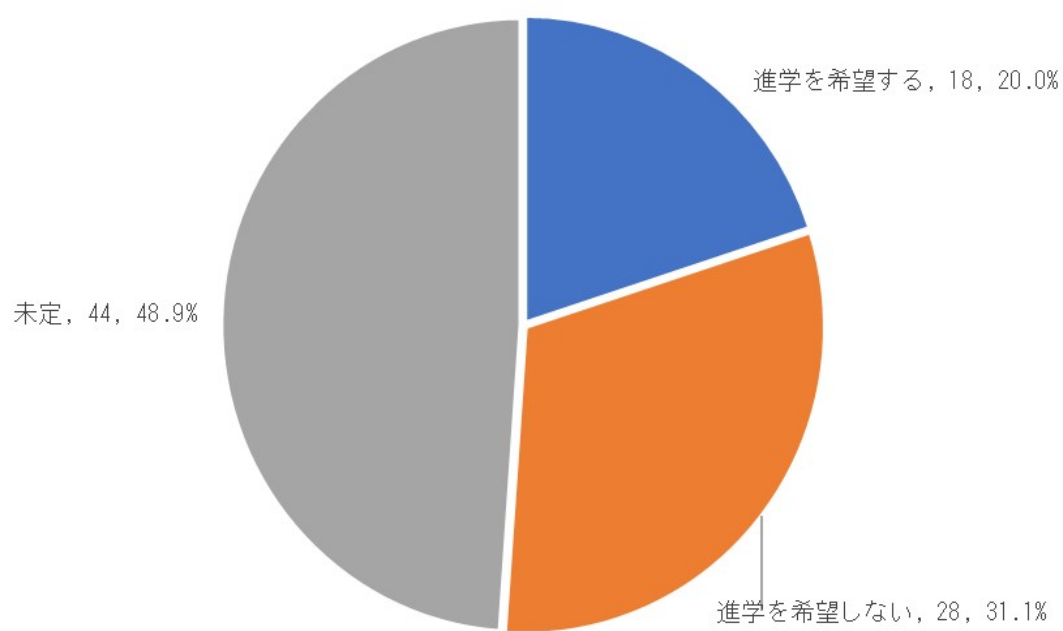
表 学年（Q3）×入学意向（Q10）

選択項目	N	%
1 年生	3	12.0
2 年生	7	28.0
3 年生	8	32.0
4 年生	7	28.0

博士後期課程への進学希望は2割

入学意向をたずねるQ10において「入学する」、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した90人に、ダイバーシティ科学専攻で博士前期課程を修了後に博士後期課程への進学の意向をたずねたところ、18人（20.0%）が進学を希望すると回答した。

グラフ 博士後期課程への進学の意向（Q11）



また、博士後期課程への進学の意向を示した18人について、回答者の学年（Q3）とクロス集計した結果、「4年生」5人（27.8%）、「3年生」6人（33.3%）、「2年生」5人（27.8%）、「1年生」2人（11.1%）となった。

グラフ 学年（Q3）×博士後期課程への進学意向（Q11）

学年	進学意向	進学を希望する	
		N	%
1年生		2	11.1
2年生		5	27.8
3年生		6	33.3
4年生		5	27.8

Ⅲ 社会人・他大学生へのアンケート調査

1 全質問項目の集計結果

Q1.あなたの性別に該当するものを選択してください。

選択項目	N	%
seibetu	1028	100.0
①男性	556	54.1
②女性	468	45.5
③その他	4	0.4

Q2.あなたの年齢をお知らせください。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
10代	200	19.5
20代	200	19.5
30代	208	20.2
40代	203	19.7
50代	108	10.5
60代	109	10.6

Q3.あなたの現在の状況について、該当するもの1つを選択してください。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
①大学1年生	75	7.3
②大学2年生	51	5.0
③大学3年生	23	2.2
④大学4年生	29	2.8
⑤大学院（修士・博士前期課程）1年生	5	0.5
⑥大学院（修士・博士前期課程）2年生	5	0.5
⑦大学院（博士後期課程）1－3年生	4	0.4
⑧在職中	634	61.7
⑨無職	33	3.2
⑩その他	169	16.4

Q4.Q3で①～⑦を選択した方に質問です。在籍中の学部・研究科の学問分野についてお答えください。

選択項目	N	%
Base	192	100.0
①人文科学	34	17.7
②社会科学	34	17.7
③理学	13	6.8
④工学	12	6.3
⑤農学	5	2.6
⑥保健	11	5.7
⑦商船	3	1.6
⑧家政	3	1.6
⑨教育	14	7.3
⑩芸術	10	5.2
⑪その他	53	27.6

Q5.Q3で⑧を選択した方に質問です。該当する業種を1つ選択してください。

選択項目	N	%
Base	634	100.0
①農業、林業	2	0.3
②漁業	0	0.0
③鉱業	1	0.2
④建設業	29	4.6
⑤製造業	99	15.6
⑥電気・ガス・熱供給・水道業	8	1.3
⑦情報通信業	81	12.8
⑧運輸業、郵便業	27	4.3
⑨卸売業、小売業	65	10.3
⑩金融業、保険業	44	6.9
⑪不動産業	20	3.2
⑫学術研究、専門・技術サービス業	34	5.4
⑬宿泊業、飲食サービス業	9	1.4
⑭生活関連サービス業、娯楽業	16	2.5
⑮教育、学習支援業	46	7.3
⑯医療、福祉	47	7.4
⑰複合サービス事業	6	0.9
⑱サービス業（他に分類されないもの）	53	8.4
⑲公務	28	4.4
⑳その他	19	3.0

Q6.Q5をお答えの方に質問です。該当する職業を1つ選択してください。

選択項目	N	%
Base	634	100.0
①管理的職業従事者	123	19.4
②専門的・技術的職業従事者	155	24.4
③事務従事者	176	27.8
④販売従事者	39	6.2
⑤サービス職業従事者	54	8.5
⑥保安職業従事者	6	0.9
⑦農林漁業従事者	1	0.2
⑧生産工程従事者	11	1.7
⑨輸送・機械運転従事者	4	0.6
⑩建設・採掘従事者	5	0.8
⑪運搬・清掃・包装等従事者	11	1.7
⑫その他	49	7.7

Q7.あなたが住まいの都道府県をお答えください。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
①埼玉県	157	15.3
②東京都	403	39.2
③神奈川県	233	22.7
④千葉県	144	14.0
⑤茨城県	34	3.3
⑥群馬県	26	2.5
⑦栃木県	25	2.4
⑧山梨県	6	0.6
⑨その他の道府県	0	0.0

Q8.あなたは、大学院に進学したいですか。現在のあなたの気持ちに一番近いものを選択してください。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
①進学したい	328	31.9
②進学したくない	304	29.6
③未定	396	38.5

Q9.Q8で①を選択した方に質問です。志望する大学院の設置者の希望を選択してください。

選択項目	N	%
Base	328	100.0
①国立	244	74.4
②公立	146	44.5
③私立	171	52.1

Q10.Q8で②、③を選択した方に質問です。環境（経済的環境、学修環境、家族の理解 等）が整えば大学院へ進学したいですか。

選択項目	N	%
Base	700	100.0
①進学したい	208	29.7
②進学したくない	236	33.7
③未定	256	36.6

Q11.あなたが、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

(複数選択可)

※複数回答項目のため、回答数は1028人の延べ数

※各構成比＝回答数÷1028

選択項目	N	%
①文学	175	17.0
②史学	131	12.7
③哲学	84	8.2
④法学・政治学	198	19.3
⑤商学・経済学	266	25.9
⑥社会学	156	15.2
⑦数学	49	4.8
⑧物理学	47	4.6
⑨化学	48	4.7
⑩生物	65	6.3
⑪地学	33	3.2
⑫機械工学	53	5.2
⑬電気通信工学	61	5.9
⑭土木・建築工学	38	3.7
⑮応用化学	26	2.5
⑯家政学	36	3.5
⑰教育学	99	9.6
⑱教員養成	36	3.5
⑲多文化共生学	48	4.7
⑳ジェンダー社会科学	55	5.4
㉑クィア・スタディーズ	21	2.0
㉒障害学	35	3.4
㉓環境学	74	7.2
㉔災害学	53	5.2
㉕組織論	33	3.2
㉖その他	214	20.8

Q12.人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。該当するもの1つを選択してください。

様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明する方法を獲得するための基礎理論を統合的に学修することができる。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
とても魅力を感じる	200	19.5
ある程度魅力を感じる	543	52.8
あまり魅力を感じない	208	20.2
まったく魅力を感じない	77	7.5

様々な分野・領域において、DEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）（以下、「DEI」）の視点からどのような課題が提起され、どのようなDEI実現の実践がなされてきたのかを探究し、自らの学問領域・研究分野、社会、文化、個別環境における課題発見につなげる実践的な学知を修得することができる。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
とても魅力を感じる	190	18.5
ある程度魅力を感じる	492	47.9
あまり魅力を感じない	256	24.9
まったく魅力を感じない	90	8.8

実践学としてのダイバーシティ科学における課題の抽出とその分析、解決策の探求において必須の調査スキルを修得することができる。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
とても魅力を感じる	184	17.9
ある程度魅力を感じる	479	46.6
あまり魅力を感じない	266	25.9
まったく魅力を感じない	99	9.6

それぞれのディシプリン（専門基礎）の専門性・体系性を DEI の視点からその課題を共同的に検討し、フィールドワークを通して実践的課題の分析能力と課題解決に向けた応用能力を修得することができる。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
とても魅力を感じる	187	18.2
ある程度魅力を感じる	490	47.7
あまり魅力を感じない	260	25.3
まったく魅力を感じない	91	8.9

学生の主体性を重視した報告と討論を中心とした共同的な学びを展開し、それぞれの専門分野における DEI 課題の探求・研究課題を明確にし、研究成果を修士論文、特定課題レポートにまとめることができる。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
とても魅力を感じる	171	16.6
ある程度魅力を感じる	487	47.4
あまり魅力を感じない	273	26.6
まったく魅力を感じない	97	9.4

多様な他者（教員・学生・国内外の研究者や外部機関関係者等）とのディスカッション等を通して、社会への関心と協働性を修得できる。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
とても魅力を感じる	203	19.7
ある程度魅力を感じる	504	49.0
あまり魅力を感じない	226	22.0
まったく魅力を感じない	95	9.2

研究指導教員及び副研究指導教員から、きめ細かな研究指導を受けることができる。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
とても魅力を感じる	235	22.9
ある程度魅力を感じる	507	49.3
あまり魅力を感じない	205	19.9
まったく魅力を感じない	81	7.9

インターネット配信を用いたライブ会議システム等により、大学以外での場所から履修相談・指導、個別相談・指導を受けることができる。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
とても魅力を感じる	231	22.5
ある程度魅力を感じる	531	51.7
あまり魅力を感じない	184	17.9
まったく魅力を感じない	82	8.0

Q13.人文社会科学研究科にダイバーシティ科学専攻（仮称）が開設された場合、受験しますか。

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
①第一志望として受験する	129	12.5
②第二志望として受験する	114	11.1
③第三志望以降として受験する	134	13.0
④受験しない	651	63.3

Q14.Q13で①～③を選択した方に質問です。受験して合格した場合、入学しますか。

選択項目	N	%
Base	377	100.0
①入学する	126	33.4
②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	230	61.0
③入学しない	21	5.6

Q15.Q14で①、②を選択した方に質問です。人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）で修士課程を修了した場合、博士後期課程への進学を希望しますか。

選択項目	N	%
Base	356	100.0
①進学を希望する	194	54.5
②進学を希望しない	56	15.7
③未定	106	29.8

2 集計結果のポイント

※「％」はいずれも小数点第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも100％と一致しない。

10代・20代は女性の回答者が6割以上、30代以降は男性の回答者が5割以上

回答者の属性を問うQ1、Q2の回答結果では、女性が10代170人、20代130人と男性の10代28人、20代69人より多く、30代では女性が92人、男性が115人、40代以降では男性が146人（40代）、98人（50代）、100人（60代）と女性の回答者よりも多い結果となった。

表 性別（Q1）×年齢（Q2）

性別 年齢	男性		女性		その他	
	N	%	N	%	N	%
10代	28	14.0	170	85.0	2	1.0
20代	69	34.5	130	65.0	1	0.5
30代	115	55.3	92	44.2	1	0.5
40代	146	71.9	57	28.1	0	0.0
50代	98	90.7	10	9.3	0	0.0
60代	100	91.7	9	8.3	0	0.0

受験・入学意向を問う回答対象者は1,028人

回答者のうち、18歳以上、大学卒（卒業見込の者を含む）の3,203人の中から、大学で学ぶこと（学び直すこと）に興味がある首都圏（1都7県）に在勤、在学、在住と回答した者は1,028人（大学及び大学院の在学者は192人（18.7%）、在職中、無職及びその他の者は836人（81.3%））であった。本調査では、この1,028人に対し人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の受験・入学意向を質問した。

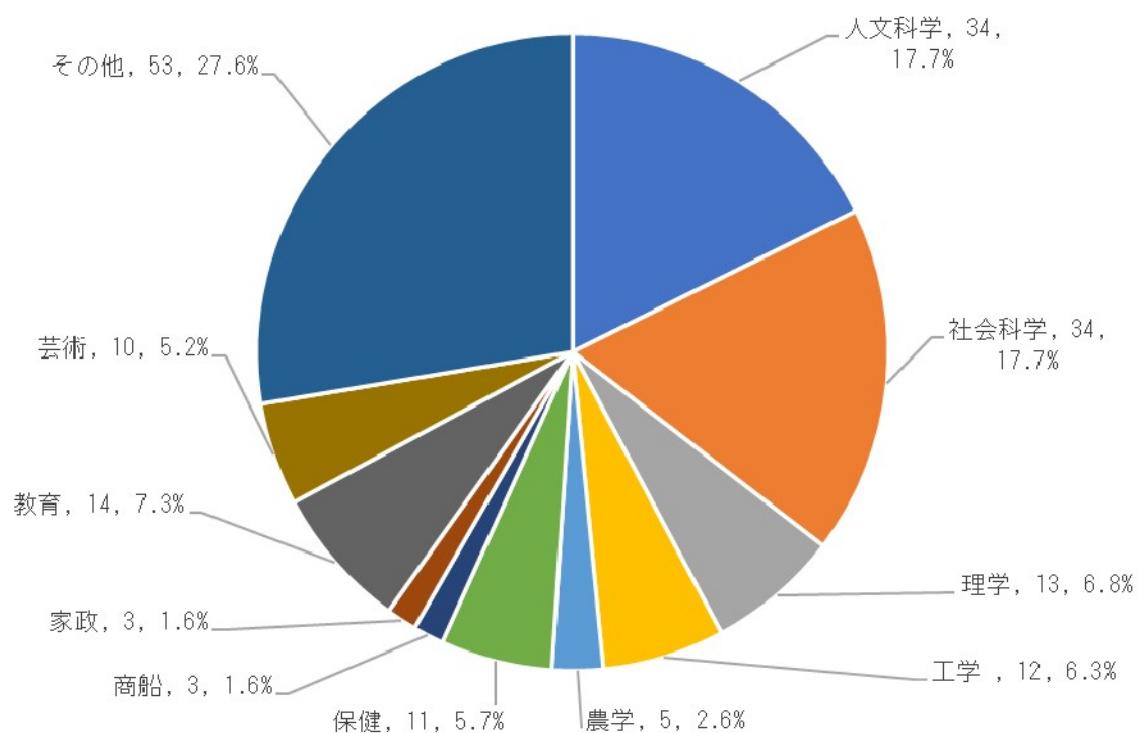
表 回答者の現在の状況（Q3）

選択項目	N	%
Base	1028	100.0
①大学1年生	75	7.3
②大学2年生	51	5.0
③大学3年生	23	2.2
④大学4年生	29	2.8
⑤大学院（修士・博士前期課程）1年生	5	0.5
⑥大学院（修士・博士前期課程）2年生	5	0.5
⑦大学院（博士後期課程）1－3年生	4	0.4
⑧在職中	634	61.7
⑨無職	33	3.2
⑩その他	169	16.4

在籍中の学部・研究科の学問分野は、人文科学と社会科学が17.7%

大学及び大学院の在学者192人の主な学問分野は、その他が53人（27.6%）、次いで人文科学と社会科学がそれぞれ34人（17.7%）、教育が14人（7.3%）、理学が13人（6.8%）、工学が12人（6.3%）、保健が11人（5.7%）、芸術が10人（5.2%）であった。

グラフ 在籍中の学部・研究科の学問分野（Q4）



回答者の業種は「製造業」が99人、職種では「事務従事者」が176人と最も多い

在職者中634人の業種及び職種は以下のとおりとなった。回答数が50人を超える業種でのうち、「製造業」では「管理的職業従事者」が34人、「情報通信業」では「専門的・技術的職業従事者」が43人、「卸売業、小売業」では「販売従事者」が20人、「サービス業」では「管理的職業従事者」15人であった。

表 業種（Q5）×職業（Q6）

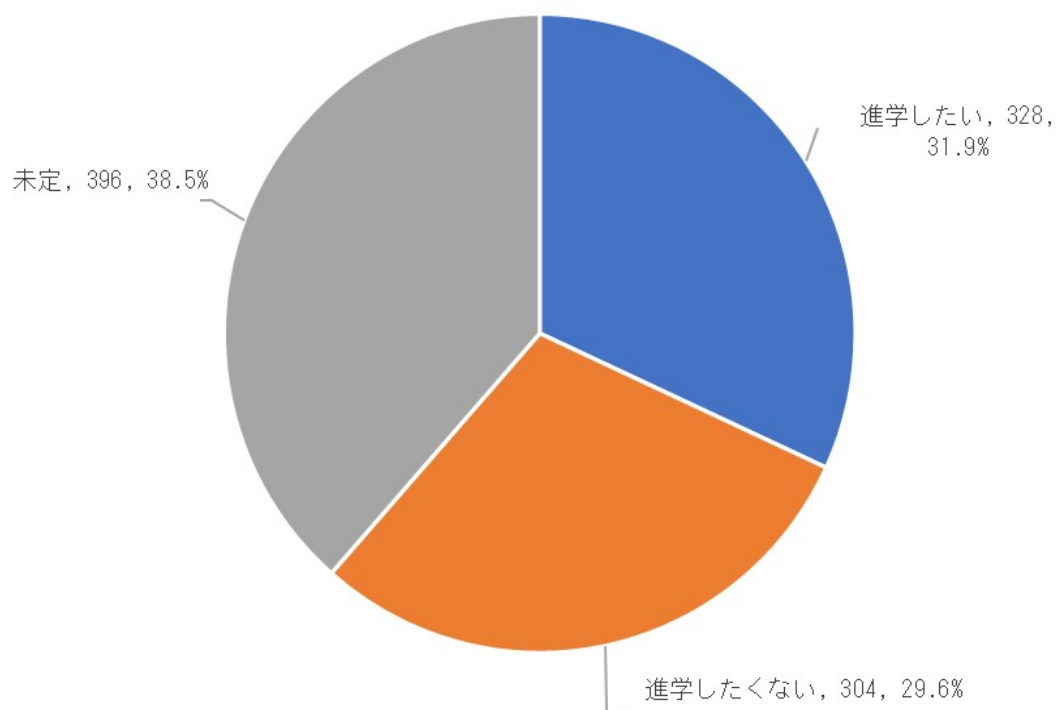
業種 \ 職業	Base	①管理的職業従事者	②専門的・技術的職業従事者	③事務従事者	④販売従事者	⑤サービス職業従事者	⑥保安職業従事者	⑦農林漁業従事者	⑧生産工程従事者	⑨輸送・機械運転従事者	⑩建設・採掘従事者	⑪運搬・清掃・包装等従事者	⑫その他
①農業、林業	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
②漁業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③鉱業	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
④建設業	29	2	7	11	0	0	1	0	0	0	5	0	3
⑤製造業	99	34	22	26	2	1	0	0	9	0	0	1	4
⑥電気・ガス・熱供給・水道業	8	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2
⑦情報通信業	81	15	43	15	2	2	0	0	0	0	0	0	4
⑧運輸業、郵便業	27	4	1	8	0	5	0	0	0	3	0	5	1
⑨卸売業、小売業	65	12	5	19	20	2	0	0	1	1	0	0	5
⑩金融業、保険業	44	12	2	21	8	0	0	0	0	0	0	0	1
⑪不動産業	20	7	5	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0
⑫学術研究、専門・技術サービス業	34	3	19	8	1	0	0	0	0	0	0	0	3
⑬宿泊業、飲食サービス業	9	2	0	0	1	4	0	0	1	0	0	0	1
⑭生活関連サービス業、娯楽業	16	3	1	2	1	9	0	0	0	0	0	0	0
⑮教育、学習支援業	46	3	20	15	0	3	0	0	0	0	0	0	5
⑯医療、福祉	47	4	19	10	0	10	0	0	0	0	0	1	3
⑰複合サービス事業	6	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	1
⑱サービス業（他に分類されないもの）	53	15	5	11	2	11	2	0	0	0	0	2	5
⑲公務	28	1	5	14	0	0	3	0	0	0	0	0	5
⑳その他	19	3	1	7	0	1	0	0	0	0	0	2	5

大学院へ「進学したい」と328人が回答

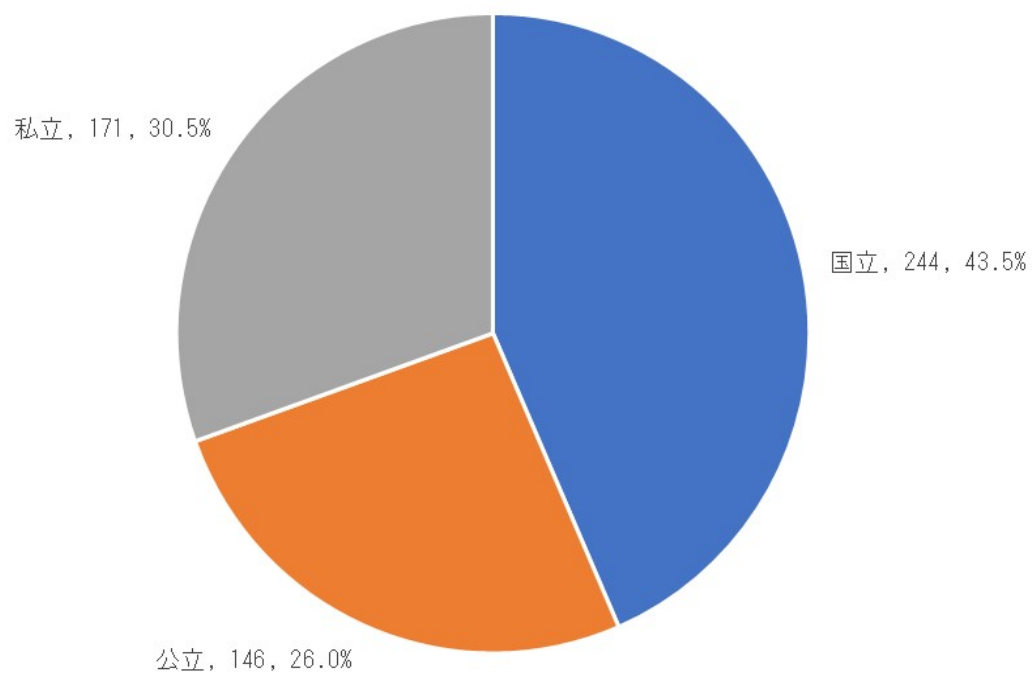
大学院への進学の意向をたずねるQ8の回答結果では、1,028人のうち328人（31.9％）が「進学したい」と回答した。

また、「進学したい」と回答した328人に対して、Q9で志望する大学院の設置者の希望をたずねたところ、244人が「国立」と回答した。

グラフ 大学院への進学意向（Q8）



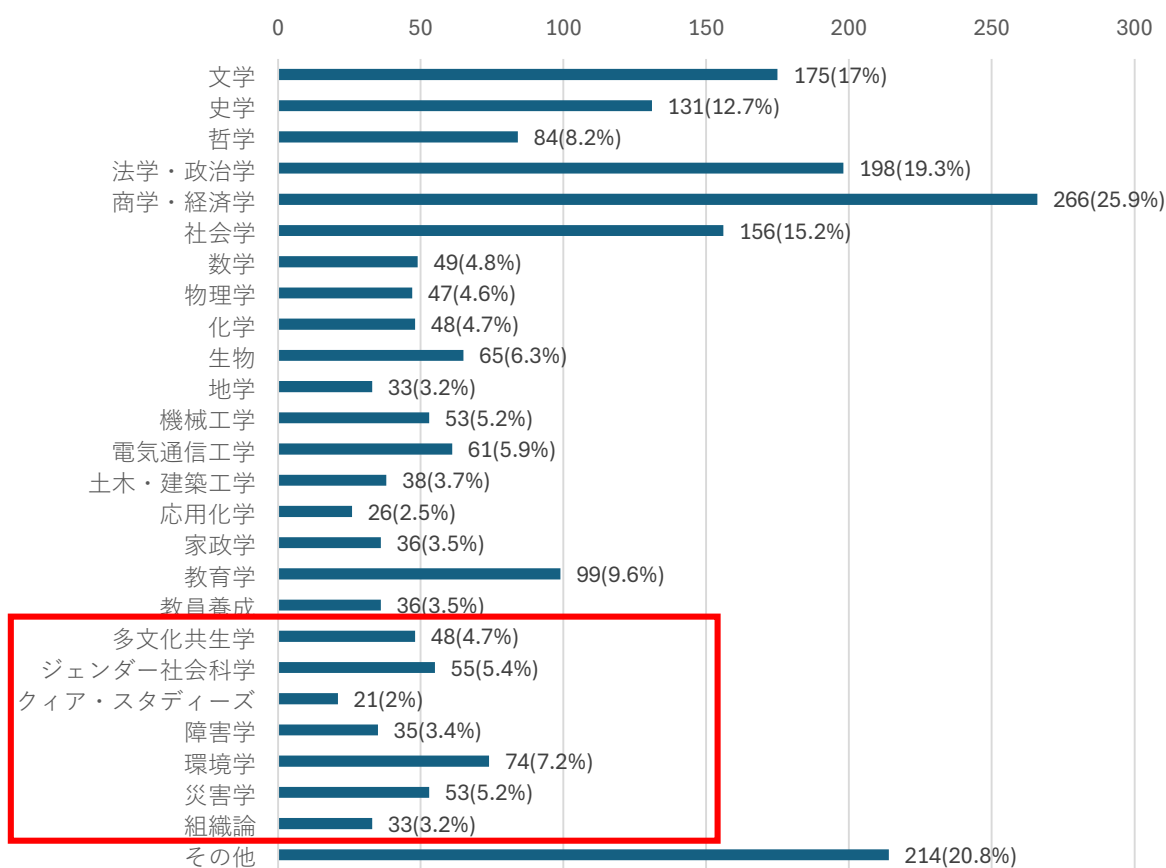
グラフ 志望する大学院の設置者の希望 (Q9)



ダイバーシティ科学に関連する学問分野への興味があると319人が回答

学びたいと考えている興味のある学問分野をたずねるQ11の回答結果では、ダイバーシティ科学に深く関連する「多文化共生学」に48人（4.7%）、「ジェンダー社会科学」に55人（5.4%）、「クィア・スタディーズ」に21人（2.0%）、「障害学」に35人（3.5%）、「環境学」に74人（7.2%）、「災害学」に53人（5.2%）、「組織論」に33人（3.2%）の計319人の回答を得た。

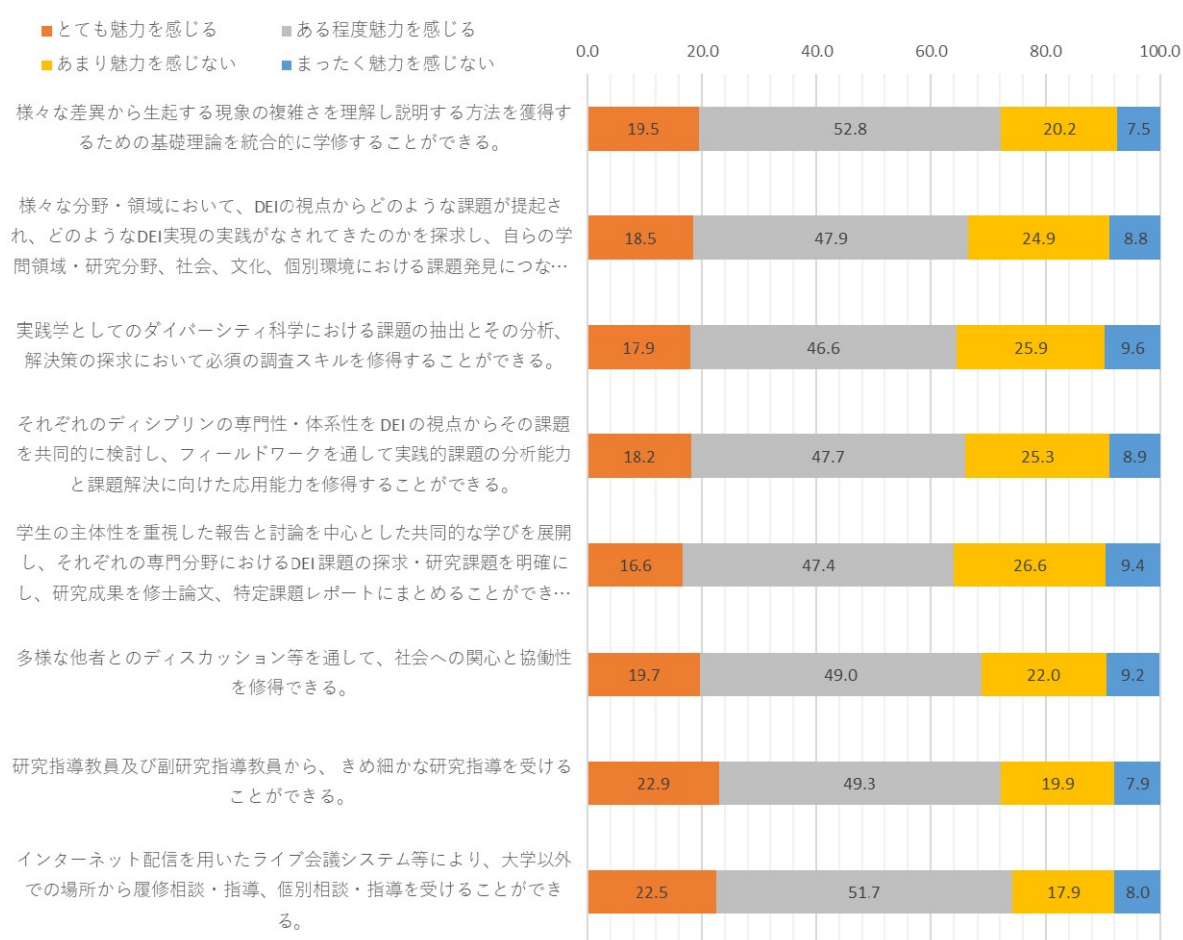
グラフ 学びたいと考えている興味のある学問分野（Q11）



ダイバーシティ科学専攻の特色について魅力を感じる回答者は6割以上

本専攻の特色についてたずねるQ12の回答結果では、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した者が、すべての項目において6割を超える結果となった。

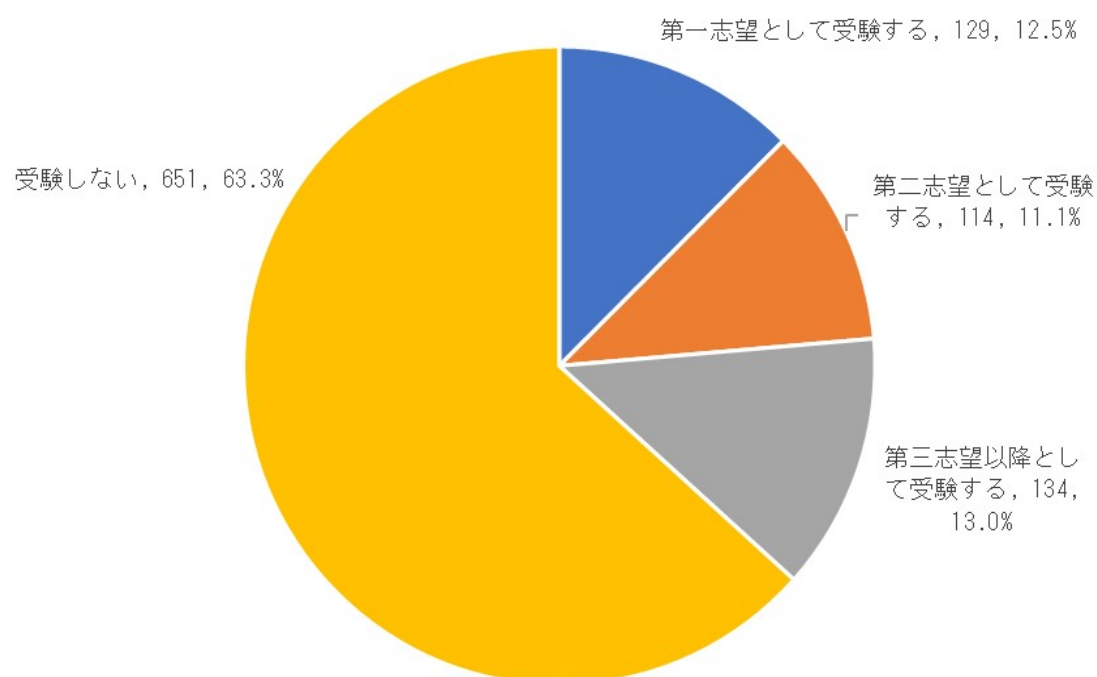
グラフ ダイバーシティ科学専攻の特色について（Q12）



10名の入学定員に対し、126人が入学意向を示す

受験意向をたずねるQ13の回答結果では、ダイバーシティ科学専攻が開設された場合、回答者1,028人のうち129人（12.5％）が「第一志望として受験する」と回答した。

グラフ 受験意向（Q13）



また、「第一志望として受験する」と回答した129人について、回答者の現在の状況（Q3）とクロス集計した結果、「在職中」と回答した98人（76.0%）が最も多い回答となった。

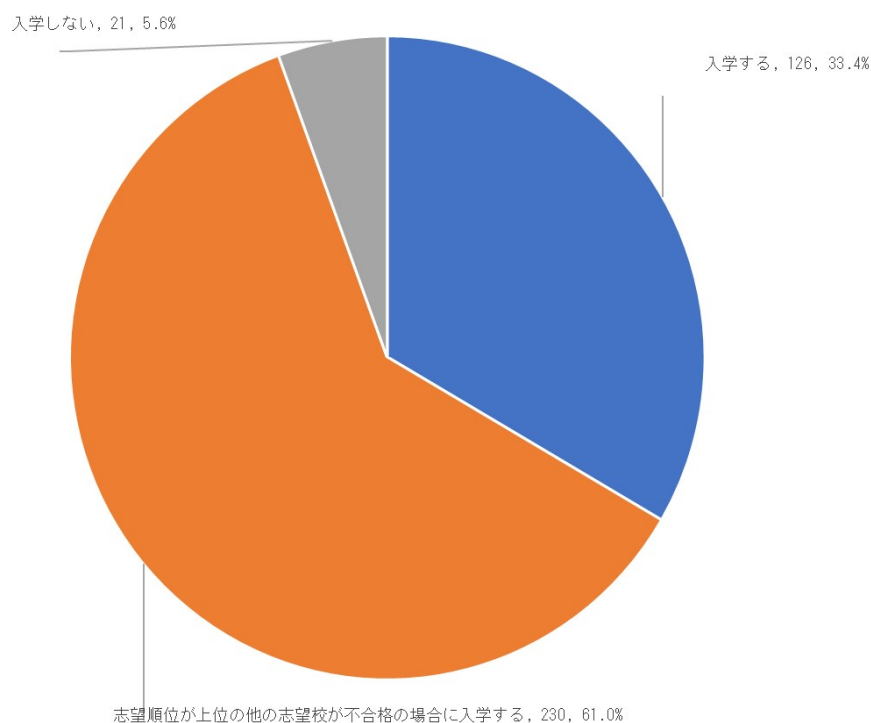
表 回答者の現在の状況（Q3）×受験意向（Q13）

選択項目	N	%
Base	129	100.0
①大学1年生	5	3.9
②大学2年生	2	1.6
③大学3年生	2	1.6
④大学4年生	4	3.1
⑤大学院（修士・博士前期課程）1年生	0	0.0
⑥大学院（修士・博士前期課程）2年生	2	1.6
⑦大学院（博士後期課程）1－3年生	2	1.6
⑧在職中	98	76.0
⑨無職	2	1.6
⑩その他	12	9.3

受験意向をたずねるQ13において「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望として受験する」と回答した377人について、受験して合格した場合の入学の意向をたずねたところ、126人（33.4%）が「入学する」と回答した。

本専攻が予定する入学定員10名を大きく上回る受験・入学意向を得る結果となった。

グラフ 入学意向（Q14）



また、入学意向をたずねるQ14において「入学する」と回答した126人について、回答者の現在の状況（Q3）とクロス集計した結果、「在職中」と回答した93人（73.8%）が最も多い回答となった。次いで「その他」と回答した13人（10.3%）であり、「大学3年生」は3人（2.4%）となった。

表 回答者の現在の状況（Q3）×入学意向（Q14）

選択項目	N	%
Base	126	100.0
①大学1年生	3	2.4
②大学2年生	4	3.2
③大学3年生	3	2.4
④大学4年生	3	2.4
⑤大学院（修士・博士前期課程）1年生	0	0.0
⑥大学院（修士・博士前期課程）2年生	2	1.6
⑦大学院（博士後期課程）1－3年生	2	1.6
⑧在職中	93	73.8
⑨無職	3	2.4
⑩その他	13	10.3

さらに、入学意向をたずねるQ14において「入学する」と回答した126人の居住地（Q7）は、「東京都」56人と「埼玉県」27人で6割を超える。

表 回答者の居住地（Q7）×入学意向（Q14）

選択項目	N	%
Base	126	100.0
①埼玉県	27	21.4
②東京都	56	44.4
③神奈川県	19	15.1
④千葉県	18	14.3
⑤茨城県	4	3.2
⑥群馬県	2	1.6
⑦栃木県	0	0.0
⑧山梨県	0	0.0
⑨その他の道府県	0	0.0

添付資料

- 1 埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）
〔仮称、令和8年4月設置構想中〕 アンケート調査 【対象：埼玉大学学部生】

埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻 (修士課程)〔仮称、令和8年4月設置構想中〕 アンケート調査 【対象：学部生】

埼玉大学は、令和8年4月より大学院人文社会科学研究科（修士課程）に「ダイバーシティ科学専攻」〔仮称〕を新設します。

ダイバーシティ科学専攻（仮称）では、ジェンダー、階級、民族、人種、セクシュアリティ、宗教、障害といった属性によって生起する社会的
不平等の再生産プロセスを解明し、その解決に向かう理論構築と実践を学ぶことができます。そして、社会における様々な人権課題の発
見とその解決に挑戦します。

ダイバーシティ科学専攻（仮称）の概要（必ずお読みください。）

<https://www.saitama-u.ac.jp/media/20240909-gaiyo.pdf>

修了後は様々な進路が想定されます。

－企業－

- ・人事部門（Diversity & Inclusion部門）：企業文化を改善し、多様な人材を受け入れるためのポリシーやプログラムを策定・実施。
- ・コンサルティング：企業向けに多様性と包摂性の戦略を提供するコンサルタント。
- ・トレーニング・教育：社員研修やワークショップを通じて、多様性の理解とスキルを高める活動。

－教育機関－

- ・研究者・大学教員：ダイバーシティや関連分野の研究を行い、大学や専門学校で教育。
- ・管理職・アドミニストレーター：教育機関のダイバーシティ推進プログラムを管理・実行。

－公共機関・政府－

- ・政策立案者：ダイバーシティを促進するための政策を策定・実行。
- ・市民サービス：多文化共生を促進するプログラムの実施や市民向けサービスの提供。

－非営利団体・NGO－

- ・プログラムコーディネーター：多様性と包摂生を支援するプログラムを企画・運営
- ・アドボカシー：社会正義や人権擁護のために活動し、ダイバーシティの重要性を広める。

－医療・福祉－

- ・医療機関の管理職：多様な患者や職員に対する包摂的な医療環境の整備。
- ・ソーシャルワーカー：多文化共生や多様な背景を持つ人々のサポート

このアンケートは、構想中のダイバーシティ科学専攻（仮称）の設置認可申請書類の一部資料並びに同専攻の内容をより充実したもの
とすることを目的として実施するものであり、得られた情報や回答内容は、統計資料としてのみ利用し、個人を特定することは一切ありませ
ん。

つきましては、下記のアンケートにご協力をお願いします。

※現段階で大学院への進学を希望されていない方も回答してください。

※令和6年4月に行った同様のアンケートに回答された方も、再度ご協力をお願いします。

回答期限：令和6年10月18日（金）23時59分

※このアンケート及び概要に記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性があります。

【本件担当】

埼玉大学研究・連携推進部

産学官連携・ダイバーシティ推進課

ダイバーシティ科学研究科設置準備室

* 必須

1. 性別 *

☐ 男性

☐ 女性

☐ その他

2. 学部 *

- ☐ 教養学部
- ☐ 経済学部
- ☐ 教育学部
- ☐ 理学部
- ☐ 工学部

3. 学年 *

- ☐ 1年生
- ☐ 2年生
- ☐ 3年生
- ☐ 4年生

4. 卒業後の進路をどのように考えていますか。（複数選択可） *

- ☐ 大学院（修士課程・博士前期課程）
- ☐ 専門職大学院
- ☐ 専門学校
- ☐ 就職
- ☐ 未定

5. 4で「大学院（修士課程・博士前期課程）」、「専門職大学院」を選択した方に質問です。志望する大学院の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）

「専門学校」、「就職」、「未定」のみを選択した方は6に進んでください。

- ☐ 国立
- ☐ 公立
- ☐ 私立

6. 4で「専門学校」、「就職」、「未定」のみを選択した方に質問です。環境（経済的環境、学習環境、家族の理解等）が整えば大学院へ進学したいですか。

- ☐ 進学したい
- ☐ 進学したくない
- ☐ 未定

7. 大学卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

※現段階で大学院への進学を希望されていない方も、参考までにお答えください。 *

- ☐ 文学
- ☐ 史学
- ☐ 哲学
- ☐ 法学・政治学
- ☐ 商学・経済学
- ☐ 社会学
- ☐ 数学
- ☐ 物理学
- ☐ 化学
- ☐ 生物
- ☐ 地学
- ☐ 機械工学
- ☐ 電気通信工学
- ☐ 土木・建築工学
- ☐ 応用化学
- ☐ 家政学
- ☐ 教育学
- ☐ 教員養成
- ☐ 多文化共生学
- ☐ ジェンダー社会科学
- ☐ クィア・スタディーズ
- ☐ 障害学
- ☐ 環境学
- ☐ 災害学
- ☐ 組織論
- ☐ その他

8. 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）には、以下のような特色があります。

それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。

該当するもの1つを選択してください。*

	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明する方法を獲得するための基礎理論を統合的に学修することができる	☐	☐	☐	☐
様々な分野・領域において、DEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）（以下、「DEI」）の視点からどのような課題が提起され、どのようなDEI実現の実践がなされてきたのかを探索し、自らの学問領域・研究分野、社会、文化、個別環境における課題発見につなげるための実践的な学知を修得することができる	☐	☐	☐	☐
実践学としてのダイバーシティ科学における課題の抽出とその分析、解決策の探求において必須の調査スキルを修得することができる	☐	☐	☐	☐
それぞれのデザインリン（専門基礎）の専門性・体系性をDEIの視点からその課題を共同的に検討し、フィールドワークを通して実践的課題の分析能力と課題解決に向けた応用能力を修得することができる	☐	☐	☐	☐
学生の主体性を重視した報告と討論を中心とした共同的な学びを展開し、それぞれの専門分野におけるDEI課題の探求・研究課題を明確にし、研究成果を修士論文、特定課題レポートにまとめることができる	☐	☐	☐	☐
多様な他者（教員・学生・国内外の研究者や外部機関関係者等）とのディスカッション等を通して、社会への関心と協働性を修得できる	☐	☐	☐	☐
研究指導教員及び副研究指導教員から、きめ細かな研究指導を受けることができる	☐	☐	☐	☐

- インターネット配信
を用いたライブ会
議システム等によ
り、大学以外での
場所から履修相
談・指導、個別
相談・指導を受け
ることができる
9. 研究科にダイバーシティ科学専攻（仮称）が開設された場合、受験しますか。*
- 院への進学を希望されていない方も、参考までにお答えください。*
- で受験する

- ☐ 第二志望として受験する
- ☐ 第三志望以降として受験する
- ☐ 受験しない

10. 受験して合格した場合、入学しますか。*

- ☐ 入学する
- ☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ 入学しない

- ⋮
11. 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）で修士課程を修了した場合、博士課程への進学を希望しますか。*

- ☐ 進学を希望する
- ☐ 進学を希望しない
- ☐ 未定

12. 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）について、もっと知りたいことやご意見・ご要望などがあれば、どのようなことでも構いませんので、ご自由にお書きください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）〔仮称、令和 8 年 4 月設置構想中〕

名称	埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）		
標準修業年限	2		
授与学位	修士（学術）	入学定員	10 名
設置の理念	社会の仕組みが多様化・複雑化し不確実性やリスクが増している現代では、大学学部レベルの基礎的な専門性に加え、DEI（多様性・公平性・包摂性（以下、「DEI」））の観点を持って現代社会が内包する諸課題を発見し、その課題の解決に向けて他者と協働・実践できる人材が必要である。 このため、人文・社会・教育・自然科学等の学部教育レベルにおけるディシプリン（専門基礎）を持った学生に対し、ダイバーシティ（多様性）についての広く深い高度な知識を基盤に、学問分野における課題の評価・解決を実践する方法を修得する教育課程を提供することを目的として、人文社会科学研究科にダイバーシティ科学専攻を設置する。		
育成する人材像	多様な視点を持つことの重要性を理解し、社会の安定的発展に貢献し、そこに生きる人々の幸福に寄与することができるよう、国、自治体、学校、企業、医療・福祉現場、調査研究機関、NGO・NPO などの場で、DEI の視点から具体的課題を見だし、他者と協働して解決を実践できる高度職業人を育成する。		
アドミッション・ポリシー	あらゆる場で DEI の視点を持ち、DEI に基づいた実践を展開できる専門家の養成を目指す本専攻では、入学時に必要な素質・能力として以下の意欲や基礎的な知識・能力を求める。 1. 学部専門レベルの学知を DEI の観点からさらに探求することを志す人 2. 社会生活における諸問題を、DEI の観点から理解し、その実践的解決を目指す人 3. 地方自治体、学校、医療・福祉、企業などの現場で働き、DEI の視点からそこの課題解決を目指す人 4. DEI 実践の創造に関する高度な知見を修得して、企業や自治体、学校や福祉に関わる現場で活躍すること、および研究者を目指す人		
ディプロマ・ポリシー	所定の教育課程を修め、学位論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者に修士（学際）の学位を授与する。 1. 様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明できる能力 2. 分野横断的な DEI 実践の知識の修得とそれらを活用する能力 3. 自らのフィールドにおける DEI 課題を発見し、総合的かつ分析的に問題を把握する能力 4. 調査法を理解・習得し、エビデンスに基づいた分析ができる能力 5. ダイバーシティ科学の学問的知見とエビデンスに裏付けられた具体的課題解決策を提示しうる能力 6. 多様な他者とコミュニケーションし、協働しながら課題解決に取り組める能力		
ダイバーシティ科学とは	多様性に関する諸問題を研究する学問であり、社会科学、自然科学、人文学、法学、教育学など、様々な学問分野と交差する。多様性とは何かを理解し、多様な差異が差別や格差に結びついてきた歴史と社会構造を明らかにし、あらゆる学問・研究領域に DEI の視点を持ち込むことで、既存の学問・研究の新たな展開と進歩を促し、より豊かで包摂的な社会や組織を築くことを目指す学際的な教育・研究である。		

カリキュラムの特色	①基盤理論科目 様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明する方法を獲得するための基礎理論をトータルに学修する。 ②基礎課題科目 政治・法、教育、医療・福祉、経済、労働、科学技術、環境等の様々な分野・領域において、DEI の視点から、これまでどのような課題が提起され、どのような DEI 実現の実践がなされてきたのかを探究することによって、自らの学問領域・研究分野、社会、文化、個別環境における課題発見につなげる応用力を育む。 ③調査スキル科目 実践学としてのダイバーシティ科学における課題の抽出とその分析、解決策の探究において必須の調査スキルを修得する。 ④専門課題科目 学生の課題意識の深化と研究課題の明確化、その課題の具体的な解決を図るための方策を探究し、修士論文作成及び特定課題レポートの基礎とする。 ⑤課題研究科目 それぞれの専門分野における DEI 課題の探究・研究課題を明確にし、研究成果を修士論文、特定課題レポートにまとめていく。本専攻指導教員と大学院生の専門領域の副指導教員とが連携を図りながら、論文作成等に必要なスキルの修得に向けた研究指導を行い、修士論文、特定課題レポートの完成を目指す。
学生納付金	<入学料> 282,000 円 (予定額) <授業料> 535,800 円/年 (予定額) ※長期履修学生制度あり 長期履修学生制度とは、職業を有している、家事・育児・介護をしている等の事情により、標準修業年限（2 年）を超えて一定の期間（最長 4 年）内で計画的にカリキュラムを履修することにより修了することができる制度である。審査の結果、この制度に適用となった者は、認められた修了期間までに標準修業年限分の授業料を毎年納める。
設置場所 (アクセス)	<設置場所> 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255 <アクセス> ・JR 京浜東北線「北浦和駅」西口下車→バス「埼玉大学」ゆき（終点） ・JR 埼京線「南与野駅」下車→北入口バス停から「埼玉大学」ゆき（終点） ・JR 埼京線「南与野駅」下車→西口バス停から全ての便が埼玉大学を経由します ・東武東上線「志木駅」東口下車→バス「南与野駅西口」ゆき（「埼玉大学」下車）
類似する大学院 及び専攻	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科ジェンダー社会科学専攻（博士前期課程）

*** 上記の内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性があります。**

添付資料

- 2 埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）
〔仮称、令和8年4月設置構想中〕 アンケート調査 【対象：社会人・他大学生】

F1 F2 Q1 Q2 QuotaAge1 Q3 Q3a Q4 Q5 Q6 Q7 Q8 Q9 Q10 Q11 Ox9x Q12 Q13 Q14 Q15 Q16

プレビュー一覧

設定一覧

GR116840：ダイバーシティ科学専攻新設に関するアンケート調査

surveyTitle()

F1.

あなたは大学で学ぶこと（学び直すこと）に興味がありますか。

（ひとつだけ）【必須】

- ☐ ①とても興味がある
- ☐ ②興味がある
- ☐ ③あまり興味がない
- ☐ ④まったく興味がない

F2.

あなたは現在、首都圏（埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、群馬県、栃木県、山梨県）に在住、在勤、または在学されていますか。

（ひとつだけ）【必須】

- ☐ ①はい
- ☐ ②いいえ

Q1.

あなたの性別に該当するものを選択してください。

（ひとつだけ）【必須】

- ☐ ①男性
- ☐ ②女性
- ☐ ③その他

Q2.

あなたの年齢をお知らせください。

【必須】

Q3.

あなたの現在の状況について、該当するもの1つを選択してください。

(ひとつだけ) **【必須】**

- ☐ ①大学1年生
- ☐ ②大学2年生
- ☐ ③大学3年生
- ☐ ④大学4年生
- ☐ ⑤大学院（修士・博士前期課程）1年生
- ☐ ⑥大学院（修士・博士前期課程）2年生
- ☐ ⑦大学院（博士後期課程）1－3年生
- ☐ ⑧在職中
- ☐ ⑨無職
- ☐ ⑩その他

★あなたの在籍している（在籍していた）大学名を教えてください。

(ひとつだけ) **【必須】**

- ☐ 日本大学
- ☐ 早稲田大学
- ☐ 慶応義塾大学
- ☐ 明治大学
- ☐ 東洋大学
- ☐ 法政大学
- ☐ 東海大学
- ☐ 東京大学
- ☐ 中央大学
- ☐ 立教大学
- ☐ 東京理科大学
- ☐ 専修大学
- ☐ 青山学院大学
- ☐ 神奈川大学
- ☐ 筑波大学
- ☐ 駒澤大学
- ☐ 帝京大学
- ☐ 千葉大学
- ☐ 埼玉大学
- ☐ その他の大学

Q4.

Q3で【[Q3]】を選択した方に質問です。

在籍中の学部・研究科の学問分野についてお答えください。

(ひとつだけ) **【必須】**

- ☐ ①人文科学
- ☐ ②社会科学
- ☐ ③理学
- ☐ ④工学
- ☐ ⑤農学
- ☐ ⑥保健
- ☐ ⑦商船
- ☐ ⑧家政
- ☐ ⑨教育
- ☐ ⑩芸術
- ☐ ⑪その他

Q5.

Q3で【[Q3]】を選択した方に質問です。

該当する業種を1つ選択してください。

(ひとつだけ) **【必須】**

- ☐ ①農業、林業
- ☐ ②漁業
- ☐ ③鉱業
- ☐ ④建設業
- ☐ ⑤製造業
- ☐ ⑥電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ ⑦情報通信業
- ☐ ⑧運輸業、郵便業
- ☐ ⑨卸売業、小売業
- ☐ ⑩金融業、保険業
- ☐ ⑪不動産業
- ☐ ⑫学術研究、専門・技術サービス業
- ☐ ⑬宿泊業、飲食サービス業
- ☐ ⑭生活関連サービス業、娯楽業
- ☐ ⑮教育、学習支援業
- ☐ ⑯医療、福祉
- ☐ ⑰複合サービス事業
- ☐ ⑱サービス業（他に分類されないもの）

- ☐ ⑱公務
- ☐ ⑳その他

Q6.

Q5をお答えの方に質問です。

該当する職業を1つ選択してください。

(ひとつだけ) **【必須】**

- ☐ ①管理的職業従事者
- ☐ ②専門的・技術的職業従事者
- ☐ ③事務従事者
- ☐ ④販売従事者
- ☐ ⑤サービス職業従事者
- ☐ ⑥保安職業従事者
- ☐ ⑦農林漁業従事者
- ☐ ⑧生産工程従事者
- ☐ ⑨輸送・機械運転従事者
- ☐ ⑩建設・採掘従事者
- ☐ ⑪運搬・清掃・包装等従事者
- ☐ ⑫その他

Q7.

あなたがお住みの都道府県をお答えください。

(ひとつだけ) **【必須】**

- ☐ ①埼玉県
- ☐ ②東京都
- ☐ ③神奈川県
- ☐ ④千葉県
- ☐ ⑤茨城県
- ☐ ⑥群馬県
- ☐ ⑦栃木県
- ☐ ⑧山梨県
- ☐ ⑨その他の道府県

Q8.

あなたは、大学院に進学したいですか。

現在のあなたの気持ちに一番近いものを選択してください。

(ひとつだけ) **【必須】**

- ☐ ①進学したい

- ☐ ②進学したくない
- ☐ ③未定

Q9.

Q8で【[Q8]】を選択した方に質問です。

志望する大学院の設置者の希望を選択してください。

(いくつでも) **【必須】**

- ☐ ①国立
- ☐ ②公立
- ☐ ③私立

Q10.

Q8で【[Q8]】を選択した方に質問です。

環境（経済的環境、学修環境、家族の理解 等）が整えば大学院へ進学したいですか。

(ひとつだけ) **【必須】**

- ☐ ①進学したい
- ☐ ②進学したくない
- ☐ ③未定

Q11.

あなたが、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

※現段階で大学院への進学を希望されていない方も、参考までにお答えください。

(いくつでも) **【必須】**

- ☐ ①文学
- ☐ ②史学
- ☐ ③哲学
- ☐ ④法学・政治学
- ☐ ⑤商学・経済学
- ☐ ⑥社会学
- ☐ ⑦数学
- ☐ ⑧物理学
- ☐ ⑨化学
- ☐ ⑩生物
- ☐ ⑪地学
- ☐ ⑫機械工学
- ☐ ⑬電気通信工学
- ☐ ⑭土木・建築工学

- ☐ ⑮応用化学
- ☐ ⑯家政学
- ☐ ⑰教育学
- ☐ ⑱教員養成
- ☐ ⑲多文化共生学
- ☐ ⑳ジェンダー社会科学
- ☐ ㉑クィア・スタディーズ
- ☐ ㉒障害学
- ☐ ㉓環境学
- ☐ ㉔災害学
- ☐ ㉕組織論
- ☐ ㉖その他

ここからは、ダイバーシティ科学専攻（仮称）の概要をご覧いただいた上でお答えください。
[ダイバーシティ科学専攻（仮称）の概要](#)

Q12.

人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）には、以下のような特色があります。
 それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。
 該当するもの1つを選択してください。

※現段階で大学院への進学を希望されていない方も、参考までにお答えください。



（横にそれぞれひとつずつ）【必須】

	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明する方法を獲得するための基礎理論を統合的に学修することができる。	☐	☐	☐	☐
様々な分野・領域において、DEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）（以下、「DEI」）の視点からどのような課題が提起され、どのようなDEI実現の実践がなされてきたのかを探求し、自らの学問領域・研究分野、社会、文化、個別環境における課題発見につなげる実践的な学知を修得することができる。	☐	☐	☐	☐

	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
実践学としてのダイバーシティ科学における課題の抽出とその分析、解決策の探求において必須の調査スキルを修得することができる。	☐	☐	☐	☐
それぞれのディシプリン（専門基礎）の専門性・体系性を DEI の視点からその課題を共同的に検討し、フィールドワークを通して実践的課題の分析能力と課題解決に向けた応用能力を修得することができる。	☐	☐	☐	☐
学生の主体性を重視した報告と討論を中心とした共同的な学びを展開し、それぞれの専門分野における DEI 課題の探求・研究課題を明確にし、研究成果を修士論文、特定課題レポートにまとめることができる。	☐	☐	☐	☐
多様な他者（教員・学生・国内外の研究者や外部機関関係者等）とのディスカッション等を通して、社会への関心と協働性を修得できる。	☐	☐	☐	☐
研究指導教員及び副研究指導教員から、きめ細かな研究指導を受けることができる。	☐	☐	☐	☐
インターネット配信を用いたライブ会議システム等により、大学以外での場所から履修相談・指導、個別相談・指導を受けることができる。	☐	☐	☐	☐

Q13.

人文社会科学研究科にダイバーシティ科学専攻（仮称）が開設された場合、受験しますか。

※現段階で大学院への進学を希望されていない方も、参考までにお答えください。

（ひとつだけ）【必須】

- ☐ ①第一志望として受験する
- ☐ ②第二志望として受験する
- ☐ ③第三志望以降として受験する
- ☐ ④受験しない

Q14.

Q13で【**Q13**】を選択した方に質問です。

受験して合格した場合、入学しますか。

（ひとつだけ）【必須】

- ☐ ①入学する
- ☐ ②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ☐ ③入学しない

Q15.

※調査時点で「博士前期課程」と説明していたため、報告の上では「修士課程」と読み替える。

Q14で【Q14】を選択した方に質問です。

人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）で博士前期課程を修了した場合、博士後期課程への進学を希望しますか。

（ひとつだけ）【必須】

- ☐ ①進学を希望する
- ☐ ②進学を希望しない
- ☐ ③未定

Q16.

人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）について、もっと知りたいことやご意見・ご要望などがあれば、どのようなことでも構いませんので、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

必ず「次へ進む」をクリックしてアンケートを終了してください。

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）〔仮称、令和 8 年 4 月設置構想中〕

名称	埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）		
標準修業年限	2		
授与学位	修士（学術）	入学定員	10 名
設置の理念	社会の仕組みが多様化・複雑化し不確実性やリスクが増している現代では、大学学部レベルの基礎的な専門性に加え、DEI（多様性・公平性・包摂性（以下、「DEI」））の観点を持って現代社会が内包する諸課題を発見し、その課題の解決に向けて他者と協働・実践できる人材が必要である。 このため、人文・社会・教育・自然科学等の学部教育レベルにおけるディシプリン（専門基礎）を持った学生に対し、ダイバーシティ（多様性）についての広く深い高度な知識を基盤に、学問分野における課題の評価・解決を実践する方法を修得する教育課程を提供することを目的として、人文社会科学研究科にダイバーシティ科学専攻を設置する。		
育成する人材像	多様な視点を持つことの重要性を理解し、社会の安定的発展に貢献し、そこに生きる人々の幸福に寄与することができるよう、国、自治体、学校、企業、医療・福祉現場、調査研究機関、NGO・NPO などの場で、DEI の視点から具体的課題を見だし、他者と協働して解決を実践できる高度職業人を育成する。		
アドミッション・ポリシー	あらゆる場で DEI の視点を持ち、DEI に基づいた実践を展開できる専門家の養成を目指す本専攻では、入学時に必要な素質・能力として以下の意欲や基礎的な知識・能力を求める。 1. 学部専門レベルの学知を DEI の観点からさらに探求することを志す人 2. 社会生活における諸問題を、DEI の観点から理解し、その実践的解決を目指す人 3. 地方自治体、学校、医療・福祉、企業などの現場で働き、DEI の視点からそこの課題解決を目指す人 4. DEI 実践の創造に関する高度な知見を修得して、企業や自治体、学校や福祉に関わる現場で活躍すること、および研究者を目指す人		
ディプロマ・ポリシー	所定の教育課程を修め、学位論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者に修士（学際）の学位を授与する。 1. 様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明できる能力 2. 分野横断的な DEI 実践の知識の修得とそれらを活用する能力 3. 自らのフィールドにおける DEI 課題を発見し、総合的かつ分析的に問題を把握する能力 4. 調査法を理解・習得し、エビデンスに基づいた分析ができる能力 5. ダイバーシティ科学の学問的知見とエビデンスに裏付けられた具体的課題解決策を提示しうる能力 6. 多様な他者とコミュニケーションし、協働しながら課題解決に取り組める能力		
ダイバーシティ科学とは	多様性に関する諸問題を研究する学問であり、社会科学、自然科学、人文学、法学、教育学など、様々な学問分野と交差する。多様性とは何かを理解し、多様な差異が差別や格差に結びついてきた歴史と社会構造を明らかにし、あらゆる学問・研究領域に DEI の視点を持ち込むことで、既存の学問・研究の新たな展開と進歩を促し、より豊かで包摂的な社会や組織を築くことを目指す学際的な教育・研究である。		

カリキュラムの特色	①基盤理論科目 様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明する方法を獲得するための基礎理論をトータルに学修する。 ②基礎課題科目 政治・法、教育、医療・福祉、経済、労働、科学技術、環境等の様々な分野・領域において、DEI の視点から、これまでどのような課題が提起され、どのような DEI 実現の実践がなされてきたのかを探究することによって、自らの学問領域・研究分野、社会、文化、個別環境における課題発見につなげる応用力を育む。 ③調査スキル科目 実践学としてのダイバーシティ科学における課題の抽出とその分析、解決策の探究において必須の調査スキルを修得する。 ④専門課題科目 学生の課題意識の深化と研究課題の明確化、その課題の具体的な解決を図るための方策を探究し、修士論文作成及び特定課題レポートの基礎とする。 ⑤課題研究科目 それぞれの専門分野における DEI 課題の探究・研究課題を明確にし、研究成果を修士論文、特定課題レポートにまとめていく。本専攻指導教員と大学院生の専門領域の副指導教員とが連携を図りながら、論文作成等に必要なスキルの修得に向けた研究指導を行い、修士論文、特定課題レポートの完成を目指す。
学生納付金	<入学料> 282,000 円 (予定額) <授業料> 535,800 円/年 (予定額) ※長期履修学生制度あり 長期履修学生制度とは、職業を有している、家事・育児・介護をしている等の事情により、標準修業年限（2 年）を超えて一定の期間（最長 4 年）内で計画的にカリキュラムを履修することにより修了することができる制度である。審査の結果、この制度に適用となった者は、認められた修了期間までに標準修業年限分の授業料を毎年納める。
設置場所 (アクセス)	<設置場所> 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255 <アクセス> ・JR 京浜東北線「北浦和駅」西口下車→バス「埼玉大学」ゆき（終点） ・JR 埼京線「南与野駅」下車→北入口バス停から「埼玉大学」ゆき（終点） ・JR 埼京線「南与野駅」下車→西口バス停から全ての便が埼玉大学を経由します ・東武東上線「志木駅」東口下車→バス「南与野駅西口」ゆき（「埼玉大学」下車）
類似する大学院 及び専攻	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科ジェンダー社会科学専攻（博士前期課程）

*** 上記の内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性があります。**

国立大学法人埼玉大学 学長 坂井 貴文 様

埼玉大学大学院（修士課程）におけるダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

近年、生産年齢人口の減少やポストコロナにおける産業構造の変化など様々な要因により社会環境は大きく変貌しています。時代の転換点において、本県が持続可能な発展を遂げていくためには、女性、高齢者、外国人、障害者、性的マイノリティなど多様な立場の人々が活躍し、様々な発想や行動が生まれることで、変化に強い社会を築いていくことが重要です。

埼玉県では、誰もがお互いを尊重し、共に生きる社会づくりを進めるために、男女共同参画や女性活躍の推進、性的マイノリティに関する理解増進などの取組を進めています。

また、就業を希望する誰もが意欲と能力に応じて活躍できる環境をつくるため、企業における柔軟な働き方を支援し、働き方改革を進めるとともに、障害者の就労や職場定着を支援する取組を行っています。

これらの取組をより一層加速させていくためには、行政による働き掛けや支援だけでなく、多様性に関する深い知識を得て、実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度な人材が企業等で活躍することも必要だと考えます。

貴学が構想する大学院修士課程において、多様な人々の活躍という視点から具体的な課題を見出し、他者と協働して解決策を実践できる高度職業人を育成することは、本県が目指す「あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる社会である『日本一暮らしやすい埼玉』」の実現に寄与するものであり、そのような能力を有する人材は本県においても貴重な人材となり得ます。

貴学大学院修士課程におけるダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、体系的な教育課程の編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年9月3日

埼玉県知事 大野 元裕



国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

当社では、社訓の一項目に創造と革新の理念を掲げ、さらに多様性を尊重した企業文化構築のため、多様性に関する理解・促進を図る社員教育の実施、相談しやすい体制の整備、働きやすい環境作りのため日々取り組んでいるところです。

しかし、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでのビジネスモデルや手法だけでは対応が難しい状況です。各社員が持つ専門性を基盤としながら、DEIの視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスのアイデアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる能力の育成も急務であると認識しています。

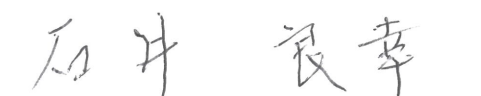
貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当社が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年9月3日

埼玉西濃運輸株式会社

代表取締役社長



国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

当会館では、男女共同参画の推進という理念を掲げ、昭和 52（1977）年に設立されて以来、全国の男女共同参画センター・女性団体・地方自治体・大学・学校・企業等と幅広く連携を図りつつ、研修、専門的な調査研究や情報・資料の提供等などの教育・学習支援を行うことで、男女共同参画社会実現のための推進拠点としての役割を果たしてまいりました。女性教育指導者や関係者、あらゆる分野での男女共同参画を推進するリーダーをはじめとして、男性、若年層にも対象を広げ、男女共同参画社会の地盤を固めるための努力を重ねています。

しかしながら、令和 5（2023）年に発表されたジェンダーギャップ指数は 146 カ国中 125 位と、過去最低を更新し続けています。その背景として、固定的性別役割分業意識の是正、組織における働き方改革、女性の経済的自立、ハラスメント防止、配偶者からの暴力防止対策をはじめとする解決すべき課題は山積しています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻において男女共同参画をはじめとするダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和 6 年 10 月 3 日

独立行政法人国立女性教育会館
理事長 萩原 なつ子



国立大学法人埼玉大学長

坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下の通り要望します。

近年、日本においてダイバーシティの重要性が認識され、一人ひとりの個性や考え方を尊重することで社会全体がより良い方向に進んでいくことが期待されています。その一方で、いじめや不登校、外国人排斥、貧困問題、LGBTQs 差別など、社会的弱者・社会的に異質なものの排除が進んでいるという状況もあります。

当法人は、埼玉県及び県内各自治体と協力しながら、生活困窮世帯の子どもに対する無料の学習教室や家庭訪問を行っています。支援対象者のうち、4人に1人はヤングケアラーであり、教育機会を奪われています。保護者の養育能力も決して高くありません。宿題をやってこない、身なりが汚れている、ぶっきらぼうなものの言い方をしてしまうなど、普通の家庭の子どもたちと比較すると表面的には劣っていたり異質な言動をしたりするため、子どもたちは区別・差別・排除され、自己肯定感を奪われ、健全に成長できずにいます。こうした子どもたちに対して私たちがなすべきことは、一見すると異質な言動をとる子どもたちが、なぜそのような言動をしてしまうのか「必然性」を理解することです。

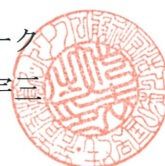
ダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当法人が期待する人材の育成に限らず、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。特に、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンに基づいて、フィールドを持ち、課題を発見し、課題解決の計画立案、計画を仲間とともに実行するという能力の獲得はまさに当法人で求められるものであり、ダイバーシティ科学専攻を修了した学生の積極的な採用を検討しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

以上

令和6年10月28日

一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク
代表理事 土屋匠宇三



国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想に賛同するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

グローバル化の進展や人口構造の変化、AIの発達、気候変動等、急速に変化が進む現代において、弊社がお客さまの喜びにつながる新しい価値を提供していくためには、過去や慣習にとらわれず、常に変革に挑戦することが必要です。新たな価値創造や変革への挑戦には、人財の多様性を確保することが重要な課題となっています。

弊社では、人財の多様性確保に向け、異なる背景や価値観を持つ多様な人財が相互に尊重しあい、最大限能力を発揮できる企業へ進化することを目指し、ダイバーシティ&インクルージョンを推進しています。人財の多様性を確保し、従来の銀行の枠を超えて、社内外で新たな価値を共創していくことが、共創社会のハブとして、そして「埼玉県の皆さまに信頼され、地元埼玉とともに発展する銀行」として、存在価値を発揮することにつながると考えています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人財を社会に輩出することは、弊社が求める人財を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年10月30日

株式会社埼玉りそな銀行

代表取締役社長

福岡 聡

国立大学法人埼玉大学長

坂井 貴文 様

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、ポストコロナ時代における行動変容など、様々な要因により社会環境は大きく変貌しています。このような変化に対応し、持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する社会全体の理解を深めることが重要です。

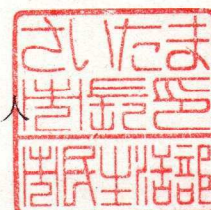
さいたま市ではこれまで、様々な立場の方が自分らしく暮らすことができるよう、「さいたま市男女共同参画のまちづくり条例」や「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例（ノーマライゼーション条例）」を制定するとともに、さいたま市に暮らす外国の方々の生活支援や性的マイノリティの方に対するパートナーシップ宣誓制度の実施など、多様性が尊重されるまちづくりに向けた施策に取り組んできました。

しかし、今後、超少子高齢化に向かうなど、これまでの社会の在り方の転換を余儀なくされている時代において、様々な計画を策定し、施策を実現していくためには、これまでの知識や手法だけでは解決が困難です。それぞれが持つ専門性を基盤としながら多様性に対する視点を踏まえ課題を発見し、解決策や計画を提案できる能力、多様な領域との継続的なコミュニケーションを構築しながらリーダーシップを発揮できる能力が必要であり、そのような人材は当市においても貴重な人材となり得るものです。

このため、ダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成する、貴学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻が設置されることを強く要望いたします。

令和6年11月18日

さいたま市長 清水 勇人



国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

当会では、昨年度「未来志向で行動しよう！キーワードは“多様性”」を活動テーマに設定しました。様々な課題が山積する先が読めない時代においては、そこで立ち止まることなく、常に未来を見据え行動することが肝要です。その動きを加速させるキーワードが“多様性”であり、誰一人取り残さず、そして持続的な発展・成長を遂げていくために“多様性”を意識し行動することが重要との考えのもと、1年間活動して参りました。また今年度は「人口爆縮時代、万全を期して取り組もう！」を活動テーマに設定しました。生産年齢人口が今後20年間で1,400万人以上減少することが見込まれ、また埼玉県でもすでに人口減少が始まり、出生率も過去最低を更新するなど、先行きに大きな不安を感じざるを得ません。少子化対策はもちろんのこと、女性や高齢者・障がい者・外国人の活躍など、これまで以上に多様性を意識して行動していかなければ生き残れない時代とも言えます。

こうした中、貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当社が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年11月26日

埼玉経済同友会

代表幹事 戸所 邦弘

代表幹事 吉野 寛治



国立大学法人埼玉大学

学長 坂井 貴文 様

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置についての要望書

貴大学では、大学院に日本初のD E I（多様性・公平性・包摂性）にもとづいた専門家を養成するダイバーシティ科学専攻（博士前期課程）を設置予定とうかがっています。

私たちさいたまミモザの会（ミモザの会）は、2016年にジェンダー平等を推進することを目的に、当時のさいたま市議会女性議員全員で「さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会」をつくり、研修会や視察を行い、知見を深め、市の女性幹部職員との交流も行ってきました。

また、さいたま市人権政策・男女共同参画課、男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま）が開催する「女性の知恵で社会をデザインする講座」に会として協力し、受講生への講評なども行っているところです。

貴大学が2022年度にダイバーシティ推進センターを設置されて以降のパートナーシップさいたまとの協働の講座においても、参加・講評をさせていただいてきました。

ミモザの会主催の研修会では、以前から貴大学の先生方を講師にお招きし、

研修会を行ってきているところですが、昨年度においてもダイバーシティ推進センターの先生方に講師を引き受けていただき、包括的性教育や会計年度任用職員制度についてご講演をいただいています。

ジェンダー平等を進めて行くことをめざしている議員、とりわけ女性議員にとっては、貴大学のダイバーシティ推進の姿勢を高く評価しているところ
です。

貴大学の構想される大学院人文社会科学研究科のダイバーシティ科学専攻は、社会のあらゆる場における一人ひとりの多様性を尊重し、社会課題を解決していく人材の育成にとって大変意義のあることと受けとめています。

さいたま市においても、人権尊重とジェンダー平等を政策として遂行していく上で貴大学のダイバーシティ科学専攻大学院で学び、行政課題の取組みに反映させることができれば、市のかかげるウェルビーイングに大きく寄与することになると考えます。

貴大学がダイバーシティ科学専攻を早期に設置し、人材の育成に着手されることを強く要望いたします。

2024年11月27日

さいたまミモザの会

(旧称　さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会)

共同代表　添野ふみ子

共同代表　稲川　智美



国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

法人会では、税のオピニオンリーダーとして、企業の発展を支援し地域の振興に寄与し、国と社会の繁栄に貢献する経営者の団体として様々な事業を実施しております。さらに多様性を尊重した法人文化構築のため、会員企業や団体職員における、多様性に関する理解・促進を図る教育の実施、相談しやすい体制の整備、働きやすい職場環境作りに日々取り組んでいるところです。

しかし、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでのビジネスモデルや手法だけでは対応が難しい状況です。各企業内においては、社員職員が持つ専門性を基盤としながら、DEIの視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスのアイデアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる能力の育成も急務であると認識しています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、各企業や当社団が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年11月28日

一般社団法人 埼玉県法人会連合会

会長

池田一義

国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、当協会内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

当協会では、銀行業務の改善進歩を図り、一般経済の発展に資するとの理念を掲げ、本会会員が多様性を尊重した企業文化を構築するため、多様性に関する理解・促進を図る人材を育成し、一層の社会貢献活動の取組を強化することを支援しているところです。

しかし、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでのビジネスモデルや手法だけでは対応が難しい状況です。当協会会員において各社員が持つ専門性を基盤としながら、DEIの視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスのアイデアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる能力の育成も急務であると認識しています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当協会会員が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年11月28日

一般社団法人埼玉県銀行協会

会長

福岡 聡

国立大学法人埼玉大学長

坂井 貴文 様

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティー科学専攻の設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティー科学専攻の設置構想を支持いたしますとともに、以下の通りを要望いたします。

埼玉県生産性本部は昭和35年に発足し公益財団法人日本生産性本部が掲げる「生産性三原則」（雇用の維持拡大、労使の協力と協議、成果の公正な分配）を理念として共有し県下で生産性向上に資する社会運動を展開してまいりました。

人口減少が当面解消できない時代環境下で経済成長を実現するためには雇用の多くを占める中小企業の成長力（付加価値労働生産性の向上）が不可欠な時代になっていることは既に人口に膾炙しております。

しかしダイバーシティー推進と云う観点から考えると「組織は人間が動かしている（日進月歩の技術革新の成果を取り込むにせよ）」の根本たる「多様性」が、いかに社会、経済活動の発展に資する「力」として発揮されているのか。多様性を「認め合う」だけでなく「どのように力」に変えていくのか。社会的なコンセンサスは総論賛成、企業の現場が各論の様々な課題に解を見出せていないに止まっていると云えるのではないのでしょうか。

端的な例示として大都市社会と地方社会における企業の現場では厳とした差異が、特にジェンダーの問題において散見する現実から眼をそむけてはならないと考えます。これは大企業における女性管理職を増やしたいが勢いが無いことにも通底する「多様性を建て前にする域から脱せられない」社会問題であり、様々な視座による学問的なアプローチによって今後解明されるべき領域ではなかろうかと考えます。

DEIの実現が重要であることは有識者、大企業、大組織の企画系のポジション人材では理解、促進をすることが、もはや常識と今やなっているのでしょうか。しかし社会全体と云う面の展開、現実の社会全体での運用面で成果に繋がり「どのような人でも自分なりの自信と夢を持ちうる」社会的な合意形成に繋げていくまでの道のりは知力と実践における胆力が求められるいまだフロンティアではないのでしょうか。

実証的な知の体系構築と社会を変えていく原動力がクロスファンクションする場としての貴学のダイバーシティー科学専攻大学院構想の実現を強く要望いたします。

2024年12月2日

埼玉県生産性本部 会長 栗田美和子



国立大学法人埼玉大学長

坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望いたします。

近年、若年者の労働人口減少やビジネスのグローバル化、AIの活用によるビジネスプロセスの変化など、ビジネス環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な事業成長を果たすためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっております。

当社では、お客様満足の追及を理念に掲げ、さらに多様性を尊重した企業文化構築のため、多様性に関する理解・促進を図る社員教育の実施、社員が相談しやすい体制の整備、働きやすい環境作りのため日々取り組んでいるところです。

しかし、ビジネス環境が大きく変化している現代において、従来のビジネスモデルやサービス提供方法だけでは対応が難しい状況です。各社員が専門性を基盤としながら、DEIの視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネス機会を創出できる能力が求められます。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる人材の育成も急務であると認識しています。

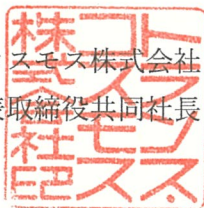
貴学が構想するダイバーシティ科学専攻において、ダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当社が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年11月11日

トランス・コスモス株式会社

代表取締役共同社長



神谷 健志

国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、急速な少子高齢化や人生100年時代の到来、ビジネスのグローバル化、感染症によるパンデミックなど急激な事業環境の変化にともない、企業が持続可能な成長を遂げるためには、ダイバーシティに関する理解を深め社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

当社では、サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）としてダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）を掲げ、多様な人材が輝ける職場づくりを目指すとともに、グループ理念のビジョンに掲げる成長の「環」を実現し、会社と従業員がともに成長することで更なる企業価値の向上に取り組んでおります。

しかし、今日の人口構造の変化や気候変動、生物多様性など様々な問題に直面する現代において、従来のビジネスモデルや手法では対応が難しくなっております。社員ひとりひとりが持つ専門性を基盤としながら、DE&Iの視点を取り入れ具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスアイデアを創出できる人材・能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら絶えず訪れる組織と人のトランジションを前向きに捉え、それらに的確に対応できるリーダーシップ能力の育成も急務であると認識しています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻において、ダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに現代社会の課題に実践的に取り組むことのできる新たな時代を牽引する人材を育成し、輩出することは、当社が求める自律型人材の育成とともに、企業が長期的・持続的に成長原資を生み出す力を向上させていくために不可欠な役割を果たすものと確信しております。

そのため、貴学大学院人文社会科学研究科において、ダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを、埼玉県「多様な働き方実践企業」認定制度においてプラチナ認定をいただく一企業として、強く要望いたします。

令和6年 11月 13日

日本ピストンリング株式会社

代表取締役社長 高橋 輝夫



国立大学法人埼玉大学長

坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年は世界情勢や社会情勢が大きく変化し、それに伴い企業活動も従来の活動では対応が難し状況となってきました。この変化に柔軟に対応し変革を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外における多様性の推進が重要な課題となっています。

当社では、人材不足を補うために多くの外国籍の方々に勤務していただいています。また、多様性を尊重する企業文化構築のため、特定子会社『株式会社スマート Fun』を設立し、障害者雇用を推進しております。これにより、多様性への理解や促進を図る従業員教育の実施や働きやすい体制・環境の整備に日々取り組んでおります。

しかしながら、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでの知識や手法では対応するには限界がきていると思われます。ダイバーシティへの障害となる無意識の偏見や思い込みへの対処には DEI の視点を持ちながら取組みを推進していくことが重要であると考えます。

貴校が構想するダイバーシティ科学専攻において、DEI の考えを組み込んだダイバーシティに関する深い知識を学ぶことは、現代社会の問題の解決や市場の理解、優れたアイデアの創出、社会の進展に貢献するイノベーションの推進には不可欠であると考えます。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科において、ダイバーシティ科学専攻が設置され現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和 6 年 11 月 13 日

埼玉県草加市柿木町宝 1338 番地 15

株式会社デリモ

代表取締役社長 栗田 美和子



2024 年 11 月

国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下の通り要望いたします。

当社は、2015 年度に「ダイバーシティ推進」を掲げ、組織の活性化を図っています。サステナビリティ委員会のダイバーシティ部会では、ダイバーシティについて定期的に議論しており、例えば女性活躍推進のため「女性社員キャリアデザイン研修」の実施などの取組みを行っております。

一方で日本の社会では少子高齢化が急速に進んでおり、スピード感を持った対策が求められております。各個人が持つ多様性を個性として尊重しながら、多様な人材が十分に能力を発揮するために、具体的な課題を発見し、解決策や新たなアイデアを創出できる能力を持つ人材が必要となると認識しております。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

2024 年 11 月 14 日

社名 **理研ビタミン株式会社**

代表者名 **代表取締役社長 山木一彦**



国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、ビジネスのグローバル化やデジタル技術の進化により、ビジネス環境はより激しくより早く変化しております。このような変化の激しい時代に対応するためには、様々なバックグラウンドを持つ人材を活用し、その変化に対応することが非常に重要になってきております。

一方で日本においては、少子高齢化により労働力不足が進行しております。当社を含む製造業においては、採用面で苦勞しており、女性や外国人、障がいのある方などが十分に活躍できるような職場環境の整備が急務です。

そして、過去からの実績が通じなくなる世の中においては、変化への対応力や新たな発想力が必要となってきます。多様性を受け入れるカルチャーの醸成と自由なコミュニケーションの中で、新たなイノベーションが生まれるきっかけとなると考えます。

このような状況のなか、貴学におけるダイバーシティ科学専攻の設置により、以下の効果が期待できると確信しております。

1. 多様性理解の深化: 多様性に関する知識を深め、学生が社会において多様性を尊重し、推進する力を養う。
2. 社会的課題への対応: 多様性に関連する社会的課題に対するアプローチを学び、解決策を模索する力を培う。
3. イノベーションの促進: 多様な視点を取り入れることで、新しいアイデアやイノベーションの創出を促進する。

以上により、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現在社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望します。

令和6年11月15日

ポーライト株式会社
代表取締役社長 菊池 正史



国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

当社グループは企業価値向上のため、企業ミッションである「エネルギーの変換効率を極限まで追及することにより、人類と社会に貢献する」に基づき、社会やお客様の要求に沿って環境に配慮した製品を開発・供給しています。サステナビリティ基本方針に則り、直面する ESG 課題に向き合い取組んでいくことが、経営理念の「社会と共に、顧客と共に、成長する企業」に繋がり、すべてのステークホルダーの皆様に認めていただける価値ある企業であると捉えております。

当社グループでは ESG 課題を整理して 4 つの ESG マテリアリティ（重要課題）「環境配慮型製品による価値提供」「事業活動と環境との調和」「多様で、働きがいのある環境づくり」「公正かつ透明性が高い経営基盤の強化」を決定しました。更なる多様性を尊重した企業文化構築のため、多様性に関する理解・促進を図る社員教育の実施、働きやすい環境作りのため日々取り組んでいるところです。

しかし、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでのビジネスモデルや手法だけでは対応が難しい状況です。各社員が持つ専門性を基盤としながら、DEI の視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスのアイデアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる能力の育成も急務であると認識しています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当社が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和 6 年 11 月 19 日

新電元工業株式会社

取締役 兼 専務執行役員

堀口 健治



国立大学法人埼玉大学長

坂井貴文殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

当社では、「生まれるべきものが生まれ 広がるべきものが広がり 残るべきものが残る世界の実現」の理念を掲げ、さらに多様性を尊重した企業文化構築のため、多様性に関する理解・促進を図る社員教育の実施、相談しやすい体制の整備、働きやすい環境作りのため日々取り組んでいるところです。

しかし、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでのビジネスモデルや手法だけでは、対応が難しい状況です。各社員が持つ専門性を基盤としながら、DEIの視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスのアイデアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる能力の育成も急務であると認識しています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当社が決める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実政的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年11月19日

株式会社マクアケ

代表取締役社長 中山 亮太郎



2024 年 11 月 19 日

国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 様

株式会社コマーム

代表取締役社長 小松 秀人 印



埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科専攻の設置に関する要望書

拝啓 秋冷の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。私たち株式会社コマームは、埼玉県を中心に、保育および子育て支援を通じて地域社会の発展に貢献してまいりました。このたび、貴学においてダイバーシティ科の設立をご検討されていると伺い、心より賛同するとともに、弊社の観点から以下の要望を申し述べさせていただきます。

1. ダイバーシティ教育の重要性

近年、多様性を尊重した社会づくりが国際的な潮流となっており、特に保育・子育て支援の現場においては、異文化、異年齢、性別、障がいの有無を問わず、すべての子どもたちが自分らしく成長できる環境が求められています。その基盤を支えるのは、ダイバーシティへの理解を深めた専門人材です。貴学のダイバーシティ科設立は、地域社会全体の意識向上と、未来の子どもたちの育成に大きく寄与するものであると確信しております。

2. 実践的プログラムの導入

私たちの保育施設では、多様な背景を持つ子どもたちや保護者が利用しており、スタッフにも多様な職員が在籍しています。このような現場で得た知見を踏まえ、以下のプログラムの導入を検討いただければと存じます。

- 保育現場でのインターンシップ：ダイバーシティを実際に体験しながら学べる機会を提供
- 子育て支援における多文化共生ワークショップ：現場からの講師派遣による実践的な知識の共有
- ジェンダーと子育てに関する研究支援：現場での課題を大学と連携して解決するプロジェクト

3. 地域社会との連携強化

貴学のダイバーシティ科が地域社会に開かれた学科となることで、行政、企業、地域住民との連携が促進され、持続可能な多様性社会の構築に貢献できると考えます。具体的には、以下のような連携を提案いたします。

- 地域課題解決型プロジェクト：保育、教育、福祉分野での共同研究や実践活動の展開
- 定期的な意見交換会の開催：地域企業や自治体と大学が一体となり、現場のニーズに即した施策を検討

4. 学生へのキャリア支援

多様性を尊重した環境で学んだ学生が、社会でその力を発揮するためには、具体的なキャリアパスが重要です。弊社では、インターンシップや新卒採用を通じて貴学の学生の成長を支援することが可能です。また、社会貢献活動に関心のある学生が、地域で活躍できる場を提供いたします。

おわりに

ダイバーシティ科の設立は、埼玉大学の教育理念に新たな価値をもたらすだけでなく、埼玉県全体の社会的価値の向上につながるものと確信しております。弊社も微力ながら、この取り組みを全力でサポートさせていただきます。

どうぞ貴学におかれましては、本要望をご賢察いただき、ダイバーシティ科設立に向けて前向きなご検討を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

国立大学法人埼玉大学学長

坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下の通り要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネス環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、コミュニティ内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、優位な人材を輩出することは、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと期待しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されること強く要望いたします。

令和6年 11 月 26 日

川口化学工業株式会社

代表取締役社長

山田 秀行

国立大学法人埼玉大学長

坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下の通り要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

弊社は、企業倫理憲章を定め基本的人権を尊重するとともに、年齢、性別、障害の有無などに関わらず、安全で安心して働ける労働環境の確保に努めております。そのため、全ての従業員が仕事と家庭を両立しながら、安心して働き続けることができる環境を目指し、次世代教育支援及び女性活躍について地域に貢献する企業となるための行動計画を定め、それに沿って日々取り組んでいるところです。また、2024年3月から「埼玉県多様な働き方実践企業」の認定をいただいております。

しかし、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでのビジネスモデルや手法だけでは対応が難しい状況です。各社員が持つ専門性を基盤としながら、DEIの視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスのアイデアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる能力の育成も急務であると認識しています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当社が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年12月4日

武州ガス株式会社

取締役社長 原 敏成



国立大学法人埼玉大学長

坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

当社では、持続可能性を尊重した企業文化構築のため、多様性に関する理解・促進を図る社員教育の実施、相談しやすい体制の整備、働きやすい環境作りのため日々取り組んでいるところです。

しかし、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでのビジネスモデルや手法だけでは対応が難しい状況です。各社員が持つ専門性を基盤としながら、DEIの視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスのアイデアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる能力の育成も急務であると認識しています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当社が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年12月5日

新日本ビルサービス株式会社

代表取締役社長 関根 一成



国立大学法人埼玉大学長

坂井貴文殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化、ビジネスのグローバル化、新型コロナウイルスの影響により、ビジネス環境は大きく変わっています。この変化に対応し、持続可能な成長を実現するためには、多様性の理解と推進が重要です。歴史が示すように、「若者」「馬鹿者」「よそ者」がイノベーションの原動力となってきました。

当社は、職人気質で作られたモノ・コトに溢れる持続可能な明るい未来の実現を目指しています。多様性を尊重する企業文化を築くため、社員教育や相談体制の整備、働きやすい環境作りに取り組んでいます。

現代の超少子高齢化に対処するためには、従来のビジネスモデルだけでは不十分です。社員は専門性を活かしつつ、DEI 視点で課題を見つけ、新たな解決策やビジネスアイデアを生み出す能力が必要です。また、多様な部門や外部と連携し、リーダーシップを発揮できるよう育成することも重要です。

貴学のダイバーシティ科学専攻で深い知識を学び、実社会の課題に取り組む高度職業人を育成することは、当社が求める人材を育成し、社会経済の発展にも重要です。

貴学大学院人文社会科学研究科にダイバーシティ科学専攻の早期設置と、その実践的教育プログラムの実現を強く希望します。

令和6年12月9日

株式会社協同商事

代表取締役 朝霧 重治



国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

当社では、幸福な社会づくりに貢献するという理念を掲げ、さらに多様性を尊重した企業文化構築のため、多様性に関する理解・促進を図る社員教育の実施、相談しやすい体制の整備、働きやすい環境作りのため日々取り組んでいるところです。

しかし、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでのビジネスモデルや手法だけでは対応が難しい状況です。各社員が持つ専門性を基盤としながら、DEIの視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスのアイデアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる能力の育成も急務であると認識しています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当社が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年12月9日

株式会社 日さく

代表取締役社長 若林直樹



国立大学法人埼玉大学長
坂井貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化などの要因により、我々企業を取り巻く環境が大きく変貌しており、今後持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

当社では、サイボーグループサステナビリティ方針の一環として、人的資本の観点から、従業員人材の多様性を尊重し、一人ひとりの能力が最大限発揮できる職場環境の整備や人材育成に取り組むことを目指しております。また、すべての人の尊厳が守られる社会の実現に向け、企業活動や職場における人権に対する意識を高く持ち、人権侵害の未然防止に努めております。

しかし、現代においてこれまでのビジネスモデルや手法では対応が難しい状況であると考えております。各従業員が持つ専門性を基盤としながら、DEI の視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスのアイデアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる能力の育成も急務であると認識しております。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻において、ダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人材を社会に輩出することは、当社が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年12月10日

埼玉県川口市前川 1-1-70

サイボー株式会社

代表取締役社長 飯塚 榮



国立大学法人 埼玉大学 学長

学 長 坂 井 貴 文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻

(博士前期課程)【仮称】の設置に関する要望書

平素より貴学の教育研究活動に対し深く敬意を表します。

弊社は、ダイバーシティの重要性を非常に強く認識しており、企業活動においても多様性を尊重する取り組みを進めております。近年の VUCA 時代に柔軟に対応し成長するためには、社会全体でダイバーシティの推進が求められており、特に企業においては多様な人材の活用こそが競争力の源泉となっております。

このことから、貴学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻(博士前期課程)【仮称】の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下の通り要望いたします。

《要望背景》

社 会 的 要 請： 少子高齢化やビジネスのグローバル化の進展に伴い、多様な人材の活用が不可欠となっております。

企 業 の ニーズ： 多様な視点を持つ人材の育成は、企業のイノベーションを促進し、持続可能な成長を支える重要な要素であります。

教 育 の 重 要 性： DEI に関する専門知識を持つ人材の育成は、社会経済全体の発展に重要な役割を果たすものであります。

《要望内容》

専 攻 の 新 設： DEI に関する専門的な理論と実践を深く学ぶことができる貴学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻(博士前期課程)【仮称】の設立を要望いたします。

カリキュラムの充実： DEI に関する専門的な理論と実践を深く学ぶことができる包括的なカリキュラムの開発をお願いいたします。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻(博士前期課程)【仮称】において、教育、研究、行政、医療、福祉、企業、科学技術などのあらゆる場で DEI に基づいた実践を展開できる高度な知識を持った専門家が育成され、社会に輩出されることは、社会経済全体の発展に重要な役割を果たすものであると確信しております。

以上より、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻(博士前期課程)【仮称】が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和 6 年 12 月 10 日

株式会社モリタ東京製作所

代表取締役社長

中 山 真 一



2024年11月19日

国立大学法人埼玉大学
埼玉大学長 坂井 貴文 殿

日本労働組合総連合会
埼玉県連合会
会長 平尾 幹雄



要 望 書

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）の設置に関する 要望について

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の影響などの様々な要因により、ビジネスおよび労働環境は大きく変貌しています。このような変化に対応し、持続可能な成長を成し遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が喫緊の課題となっています。

そのような中、連合埼玉では、ジェンダー平等をはじめとして、一人ひとりが尊重された「真の多様性」が根付く職場・社会の実現をめざし、構成組織の労使が一体となって取り組みを進めています。具体的には、多様性に関する理解・促進をはかるための教育や相談しやすい体制の整備などに日々取り組んでいます。

しかしながら、各企業では、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでのビジネスモデルや手法だけでは対応が難しい状況となっています。社員一人ひとりが持つ専門性を基盤としながら、多様性、公正性、包括性の視点を取り入れ、具体的な課題を把握し、それぞれの課題策や新たなビジネスのアイデアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる人材の育成も急務であると認識しています。

そこで、貴学が構想する人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）では、ダイバーシティに関する深い知識を学び、山積された実社会の課題に対して実践的に取り組むことができる人材を育成し、ひいては、社会に有為な人材を輩出することは、企業が求める人材を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しています。

つきましては、貴学において人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

以 上

要望書提出組織

日本労働組合連合会埼玉県連合会（連合埼玉）加盟組織			
1	日本郵政グループ労働組合埼玉連絡協議会	35	リケン労働組合
2	全日本自動車産業労働組合総連合会埼玉地方協議会	36	ジーテクト労働組合
3	全日産・一般業種労働組合連合会埼玉地方協議会	37	椿本チエイン労働組合埼玉支部
5	埼玉トヨタ自動車労働組合	38	ジーエス・ユアサ労働組合川越支部
6	全国本田労働組合連合会埼玉地方協議会	39	デンソーワイバスシステムズ労働組合
7	全国交通運輸労働組合総連合会埼玉交通運輸労働組合	40	東京軽合金労働組合
8	全国交通運輸労働組合総連合会埼玉・日本梱包運輸倉庫	41	北川鉄工所労働組合大宮支部
9	全国交通運輸労働組合総連合会埼玉・うらわ自動車教習所支部	42	ヴァレオジャパン労働組合
10	全国交通運輸労働組合総連合会埼玉・つばめタクシー支部	43	フォルシアクリオン・エレクトロニクスユニオン
11	全国交通運輸労働組合総連合会埼玉・東浦和交通支部	44	児玉化学労働組合
12	全国交通運輸労働組合総連合会埼玉・埼玉交通労働組合	45	アドバンテスト労働組合
13	全国交通運輸労働組合総連合会埼玉・平和自動車支部	46	パイオニア労働組合川越支部
14	全国交通運輸労働組合総連合会埼玉・狭山貨物支部	47	OKIネクステック労働組合所沢支部
15	全国交通運輸労働組合総連合会埼玉・東洋商事支部	48	埼玉村田製作所労働組合
16	全国交通運輸労働組合総連合会埼玉・埼玉西濃支部	49	秩父富士労働組合
17	全日本鉄道労働組合総連合会埼玉県協議会	50	サンケン電気労働組合
18	政府関係法人労働組合連合会埼玉県地方連絡会議	51	富士電機労働組合吹上支部
19	日本化学エネルギー産業労働組合連合会埼玉地方連絡会	52	バイオニアファインテック労働組合
20	日本化学エネルギー産業労働組合連合会富士フィルム労働組合埼玉支部	53	埼玉県電力関連産業
21	日本化学エネルギー産業労働組合連合会太平洋化学製品労働組合	54	東京電力労働組合埼玉地区本部
22	日本化学エネルギー産業労働組合連合会埼玉環境支部	55	三井精機労働組合
23	埼玉県建設労働組合連合会	56	東電常備職員労働組合埼玉県支部
24	全日本自治団体労働組合埼玉県本部	57	東光高岳労働組合蓮田支部
25	全日本自治団体労働組合埼玉地域公共サービスユニオン	58	関東電気保安協会労働組合埼玉支部
26	全日本自治団体労働組合埼玉県本部書記労働組合	59	ソーシン労働組合
27	熊谷市職員労働組合	60	OKIソフトウェアユニオン
28	ときがわ町職員組合	61	全日本運輸産業労働組合埼玉県連合会
29	曙ブレーキ工業労働組合	62	PFA労働組合
30	曙ブレーキ工業労働組合羽生支部	63	テクセンドフォトマスク労働組合
31	曙ブレーキ工業労働組合岩槻支部	64	三井電機ホーム機器労働組合
32	新電元工業労働組合	65	安川電機労働組合入間支部
33	日本精工労働組合	66	沖電気工業労働組合蕨支部
34	ポッシュ労働組合	67	日清紡マイクロデバイス労働組合
35	リケン労働組合	68	日立Astemo労働組合

国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な要因によりビジネスの環境は大きく変貌しており、このような変化に対応し持続可能な成長を遂げるためには、多様性に関する理解を深め、社内外での多様性の推進が重要な課題となっています。

電通グループでは、「ダイバーシティ」「エクイティ」「インクルージョン」(DEI)の推進を、“人起点の変革”の最前線に立ち、社会にポジティブな動力を生み出す”というビジョンの中心に据えています。また経営方針としている『B2B2S』は、お客様企業の事業課題の解決を通じて社会に貢献するという考え方であり、DEIの領域も、社内だけでなく外部のプレーヤーも巻き込み、顧客企業の皆様とともに社会全体をよくしていきたいと考えています。

しかし、未曾有の超少子高齢化に直面する現代において、これまでのビジネスモデルや手法だけでは対応が難しい状況です。各社員が持つ専門性を基盤としながら、DEIの視点を取り入れ、具体的な課題を発見し、解決策や新たなビジネスのアイディアを創出できる能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる能力の育成も急務であると認識しています。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻においてダイバーシティに関する深い知識を学ぶとともに、山積された実社会の課題に実践的に取り組むことができる高度職業人を育成し、有為な人財を社会に輩出することは、当社が求める人財を育成するだけでなく、社会経済が発展するために重要な役割を果たすものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年12月5日

dentsu Japan
チーフ・ダイバーシティ・オフィサー

口羽 敦子

国立大学法人埼玉大学長
坂井 貴文 殿

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の
設置に関する要望書

貴学の大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻の設置構想を支持するとともに、当該専攻の設置について以下のとおり要望します。

近年、人口構造の変化やビジネスのグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など、多様な要因によってビジネス環境は大きく変貌しています。企業がこのような変化に対応し、持続可能な成長を遂げるためには、多様性への理解を深め、社内外での多様性推進が重要な課題となっています。

商工会議所では、企業が直面する経営課題の解決（経営支援）、地域振興活動（まちづくりや観光振興）、そして政策提言（企業の声を市や都道府県に届ける活動）など、多岐にわたる取り組みを行っています。特に新型コロナウイルス感染症の拡大以降は、エネルギー価格を中心とする物価高騰や、人手不足の顕在化が中小企業経営を圧迫しており、価格転嫁対策や省力化支援に日々取り組んでいます。

しかし、未曾有の超少子高齢化に直面する現代では、従来のビジネスモデルや手法だけでは対応が難しい状況です。各社員や職員が持つ専門性を基盤に、DEI（多様性・公平性・包括性）の視点を取り入れ、課題を発見し、新たな解決策やビジネスアイデアを創出する能力が求められています。また、多様な部門や外部との継続的なコミュニケーションを構築しながら、リーダーシップを発揮できる人材の育成も急務です。

貴学が構想するダイバーシティ科学専攻において、多様性に関する深い知識を学び、実社会の課題に実践的に取り組む高度職業人を育成することは、当会が求める人材を育てるだけでなく、社会経済の発展にも寄与するものと確信しております。

このため、貴学大学院人文社会科学研究科においてダイバーシティ科学専攻が設置され、現代社会の課題を実践的に学ぶことが可能な教育研究プログラムの編成が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和6年12月17日

一般社団法人 埼玉県商工会議所連合会

会 長 池田 一 美

埼玉大学大学院人文社会科学研究科
ダイバーシティ科学専攻（修士課程）

「設置構想に係る人材需要アンケート調査」報告書

令和6年12月17日

埼玉大学大学院人文社会科学研究科

目次

I	調査の概要	99
II	企業・団体人事担当者へのアンケート調査	
1	全質問項目の集計結果	100
2	集計結果のポイント	109
添付資料		
1	埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）〔仮称・令和8年4月設置構想中〕 アンケート調査 【対象：企業等 人事ご担当者様】	122

I 調査の概要

- ◆ 調査目的 : 本調査は、埼玉大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）が令和8年4月設置に向けて構想中の「ダイバーシティ科学専攻（仮称）」の修了生に対する企業や団体等の受入意向等を、アンケート調査を用いて測ることを目的とする。
- ◆ 調査期間 : 令和6年9月～10月
- ◆ 調査対象 : 企業・団体人事担当者 埼玉大学産学官連携協議会〔賛助会員含む〕（223件）
合同企業説明会参加企業（234件）
彩の国研究者ネットワーク参画機関（7件）
埼玉県内自治体（64件）
- ◆ 調査方法 : 埼玉大学が保有する各企業・団体の担当部署（528ヶ所）のメールアドレスにアンケートを配信し、オンライン調査を実施。
- ◆ 調査内容 : アンケート項目は全16問の選択式とし、主な内容は次のとおりである。
 - 回答者の基本情報
 - ダイバーシティ科学専攻への評価
 - ダイバーシティ科学専攻修了者への採用意向
 - ダイバーシティ科学専攻への社員等の推薦意向
- ◆ 有効回答件数 : 企業・団体等人事担当者 119件

II 企業・団体等人事担当者へのアンケート調査

1 全質問項目の集計結果

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度について、該当するもの1つを選択してください。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
採用の決裁権があり、選考に関わっている	31	26.1
採用の決裁権はないが、選考に関わっている	76	63.9
採用には直接かわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある。	12	10.1

Q2. 貴社・貴団体の本社（本部）所在地について、都道府県名を選択してください。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
北海道	1	0.8
埼玉県	49	41.2
千葉県	1	0.8
東京都	52	43.7
神奈川県	5	4.2
岐阜県	1	0.8
静岡県	1	0.8
愛知県	1	0.8
三重県	1	0.8
京都府	1	0.8
大阪府	3	2.5
兵庫県	1	0.8
広島県	1	0.8
愛媛県	1	0.8

Q3.貴社・貴団体の業種について、該当するもの1つを選択してください。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
建設業	12	10.1
製造業	35	29.4
電気・ガス・熱供給・水道業	3	2.5
情報通信業	24	20.2
運輸業、郵便業	1	0.8
卸売業、小売業	4	3.4
金融業、保険業	5	4.2
学術研究、専門・技術サービス業	4	3.4
生活関連サービス業、娯楽業	1	0.8
教育、学習支援業	1	0.8
複合サービス事業	2	1.7
サービス業（他に分類されないもの）	3	2.5
公務	22	18.5
その他	2	1.7

Q4.貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、該当するもの1つを選択してください。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
50名未満	8	6.7
50名～100名未満	8	6.7
100名～500名未満	35	29.4
500名～1,000名未満	26	21.8
1,000名～5,000名未満	29	24.4
5,000名以上	13	10.9

5.貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正社員の採用数について、お教えてください。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
0名	3	2.5
1～5名	14	11.8
6～10名	20	16.8
11～20名	19	16.0
21～30名	14	11.8
31～40名	8	6.7
41～50名	9	7.6
51～100名	12	10.1
101～500名	18	15.1
501～1000名	2	1.7

6.貴社・貴団体では、どのような学問分野で学んだ人を採用したいとお考えですか。該当するものすべてを選択してください。

※複数回答項目のため、回答数は119人の延べ数

※各構成比＝回答数÷119

選択項目	N	%
文学	42	35.3
史学	38	31.9
哲学	38	31.9
法学・政治学	61	51.3
商学・経済学	71	59.7
社会学	52	43.7
数学	53	44.5
物理学	61	51.3
化学	65	54.6
生物	47	39.5
地学	37	31.1
機械工学	84	70.6
電気通信工学	89	74.8
土木・建築工学	54	45.4
応用化学	62	52.1
家政学	32	26.9
教育学	35	29.4
教員養成	30	25.2
多文化共生学	35	29.4
ジェンダー社会科学	31	26.1
クィア・スタディーズ	28	23.5
障害学	30	25.2
環境学	45	37.8
災害学	39	32.8
組織学	41	34.5
その他	16	13.4

Q7.人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）では、以下のような資質・能力の修得を目指します。それぞれの資質・能力について、貴社・貴団体（ご回答者様）の求める人材像と照らし合わせて、どの程度魅力を感じますか。該当するもの1つを選択してください。

様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明できる。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
とても魅力を感じる	40	33.6
ある程度魅力を感じる	68	57.1
あまり魅力を感じない	11	9.2
まったく魅力を感じない	0	0.0

分野横断的なDEI実践の知識の修得とそれらを活用することができる。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
とても魅力を感じる	23	19.3
ある程度魅力を感じる	76	63.9
あまり魅力を感じない	19	16.0
まったく魅力を感じない	1	0.8

自らのフィールドにおけるDEI課題を発見し、総合的かつ分析的に問題を把握することができる。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
とても魅力を感じる	33	27.7
ある程度魅力を感じる	76	63.9
あまり魅力を感じない	9	7.6
まったく魅力を感じない	1	0.8

調査法を理解・習得し、エビデンスに基づいた分析ができる。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
とても魅力を感じる	63	52.9
ある程度魅力を感じる	53	44.5
あまり魅力を感じない	3	2.5
まったく魅力を感じない	0	0.0

ダイバーシティ科学の学問的知見とエビデンスに裏付けられた具体的課題解決策を提示することができる。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
とても魅力を感じる	37	31.1
ある程度魅力を感じる	66	55.5
あまり魅力を感じない	15	12.6
まったく魅力を感じない	1	0.8

多様な他者とコミュニケーションし、協働しながら課題解決に取り組むことができる。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
とても魅力を感じる	86	72.3
ある程度魅力を感じる	31	26.1
あまり魅力を感じない	2	1.7
まったく魅力を感じない	0	0.0

Q8.貴社・貴団体（ご回答者様）は、「ダイバーシティ科学専攻」を修了した学生（令和10年3月修了予定者）について、採用したいと思いますか。該当するもの1つを選択してください。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
採用したい	34	28.6
採用を検討したい	40	33.6
採用したくない	3	2.5
現時点ではわからない	42	35.3

Q9.8で「採用したい」を選択した方に質問です。採用可能と思われる人数は何人ですか。
※Q8で「採用したい」と回答した34件を対象とする。

選択項目	N	%
Base	34	100.0
1人	17	50.0
2人	4	11.8
3人以上	13	38.2

Q10.8で「採用したくない」を選択した方に質問です。どのようなことでも構いませんので、理
※参考のため、問3の業種を記載した。

選択項目	記述内容
建設業	DEIの観点を持って課題解決に向けて実践できる人材はとても大事な人材だと感じる が、建設業の電気設備工事の当社に当てはまるかという違う気がするため。
情報通信業	プログラミング経験が採用必須のため。
製造業	当社の業務内容との兼ね合いで、採用対象 学科系統を機械系、電気・電子系、情報工 学系に絞っているため。

Q11.貴社・貴団体（ご回答者様）は、社員の研修の一環として「埼玉大学大学院人文社会科学研究所ダイバーシティ科学専攻」に社員を推薦したいと思いますか。該当するもの1つを選択してください。

選択項目	N	%
Base	119	100.0
推薦したい	3	2.5
推薦を検討したい	13	10.9
推薦したくない	3	2.5
現時点ではわからない	100	84.0

Q12.11で「推薦したい」を選択した方に質問です。現時点で推薦可能と思われる人数は何人ですか。
※Q11で「推薦したい」と回答した3件を対象とする。

選択項目	N	%
Base	3	100.0
1人	2	66.7
2人	0	0.0
3人以上	1	33.3

Q13.「推薦したい」、「推薦を検討したい」を選択した方に質問です。推薦の目的はどのようなものですか。（複数選択可）

※複数回答項目のため、回答数はQ11で「推薦したい」「推薦を検討したい」と回答した16人の延べ数

※各構成比＝回答数÷16

選択項目	N	%
様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明できる能力の修得	7	43.8
分野横断的なDEI実践の知識の修得とそれらを活用する能力の修得	1	6.3
自らのフィールドにおけるDEI課題を発見し、総合的かつ分析的に問題を把握する能力の修得	7	43.8
調査法を理解・習得し、エビデンスに基づいた分析ができる能力の修得	5	31.3
ダイバーシティ科学の学問的知見とエビデンスに裏付けられた具体的課題解決策を提示しうる能力の修得	4	25.0
多様な他者とコミュニケーションし、協働しながら課題解決に取り組める能力の修得	11	68.8

Q14.「推薦したくない」を選択した方に質問です。どのようなことでも構いませんので、理由をご記入ください。

※参考のため、問3の業種を記載した。

業種	記述内容
生活関連サービス業、娯楽業	ほかにもっと学ばせたい、基礎的な内容があります。
建設業	当社の業種には合致しないと考えたため
情報通信業	事業に直結していないため
情報通信業	事業に直結していないため

Q15. 貴社・貴団体の社員が大学院に入学する（推薦する）場合、貴社・貴団体（ご回答者様）として実施されている支援がありましたら、お教えてください。該当するものすべてを選択してください。（複数選択可）

※複数回答項目のため、回答数は119人の延べ数

※各構成比＝回答数÷138

選択項目	N	%
出願時の推薦	11	8.0
経済的な支援	14	10.1
学修時間確保のための勤務配慮	28	20.3
特に支援はしていない	79	57.2
その他	6	4.3

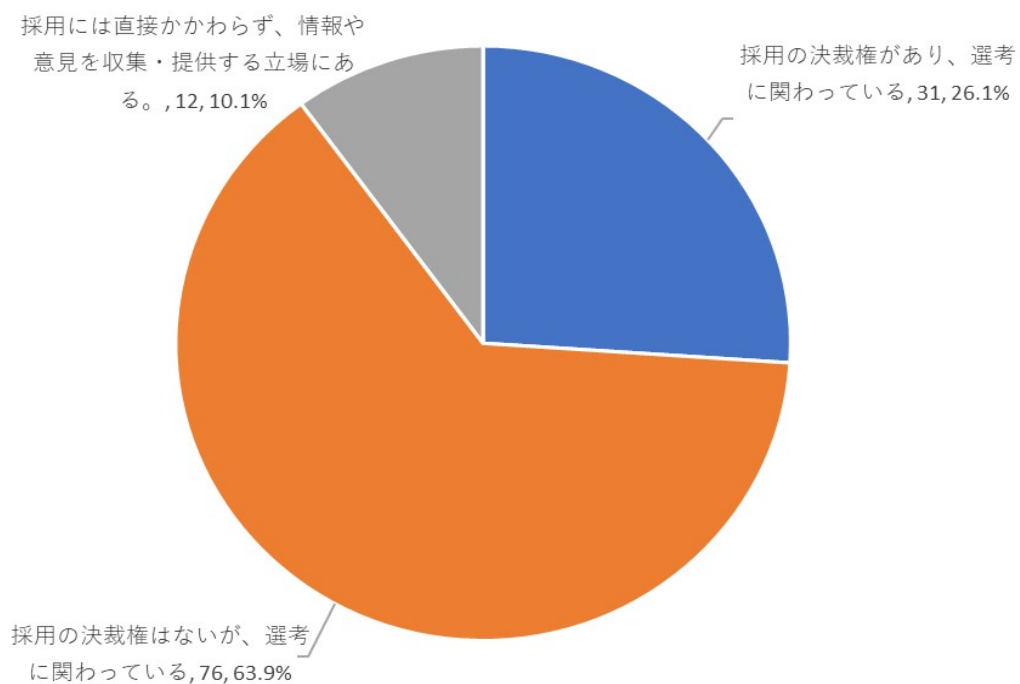
2 集計結果のポイント

※「％」はいずれも小数点第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも100％と一致しない。

「採用の決裁権はないが、選考に関わっている」方からの回答が 63.9%

Q1の人事採用への関与度について、「採用の決裁権はないが、選考に関わっている」76件（63.％）、「採用の決裁権があり、選考に関わっている」31人（26.1％）、「採用には直接かわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある。」12件（10.1％）の回答となった。

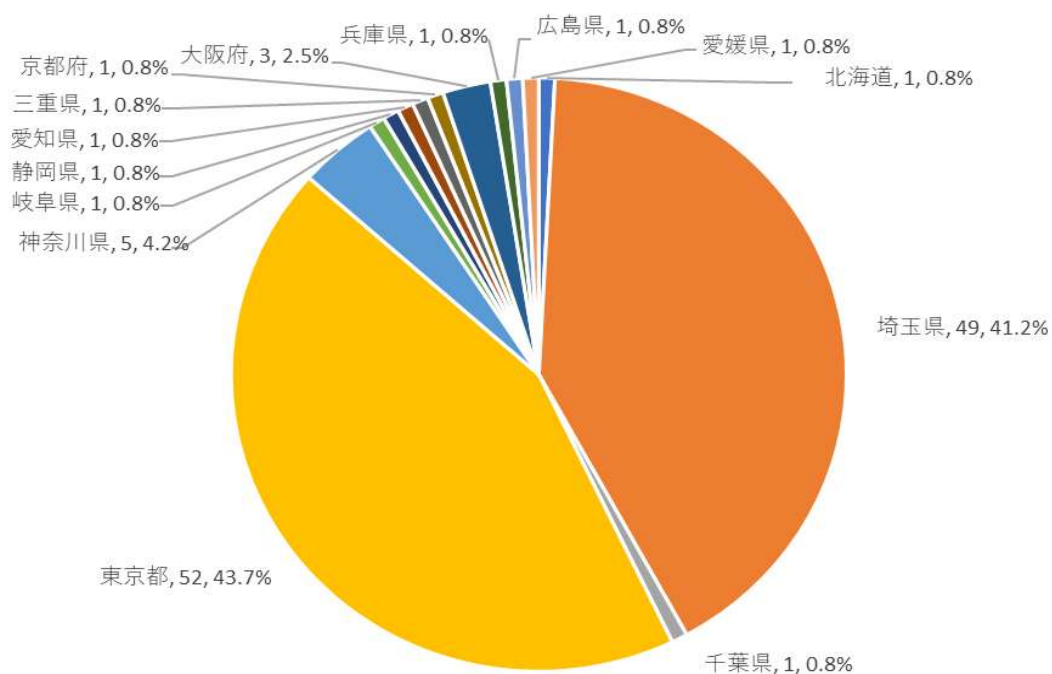
グラフ 人事採用への関与度（Q1）



本学がある埼玉県や東京都を所在地とする企業・団体が84.9%

Q2の所在地についての質問では、回答が多い順に「東京都」が52件（43.7%）、「埼玉県」が49件（41.2%）、「神奈川県」が（4.2%）、「大阪府」が3件（2.5%）、「北海道、千葉県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、兵庫県、広島県、愛媛県」が1件（0.8%）となった。

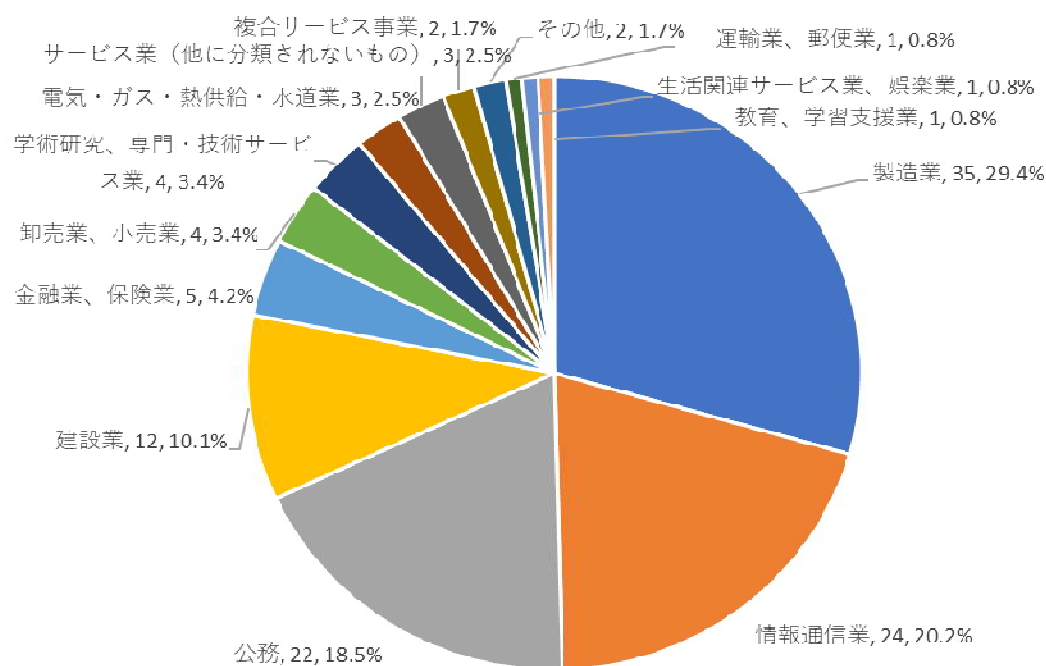
グラフ 本社（本部）所在地（Q2）



業種は「製造業」が29.4%

Q3の業種についての質問では、回答が多い順に「製造業」が35件（29.4%）、「情報通信業」が24件（20.2%）、「公務」が22件（18.5%）、「建設業」が12件（10.1%）、「金融・保険業」が5件（4.2%）、「卸売・小売業、学術研究、専門・技術サービス業」が4件（3.4%）「電気・ガス・熱供給・水道業、サービス業（他に分類されないもの）」が3件（2.5%）、「複合サービス事業、その他」が2件（1.7%）、「運輸業、郵便業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業」が1件（0.8%）となった。

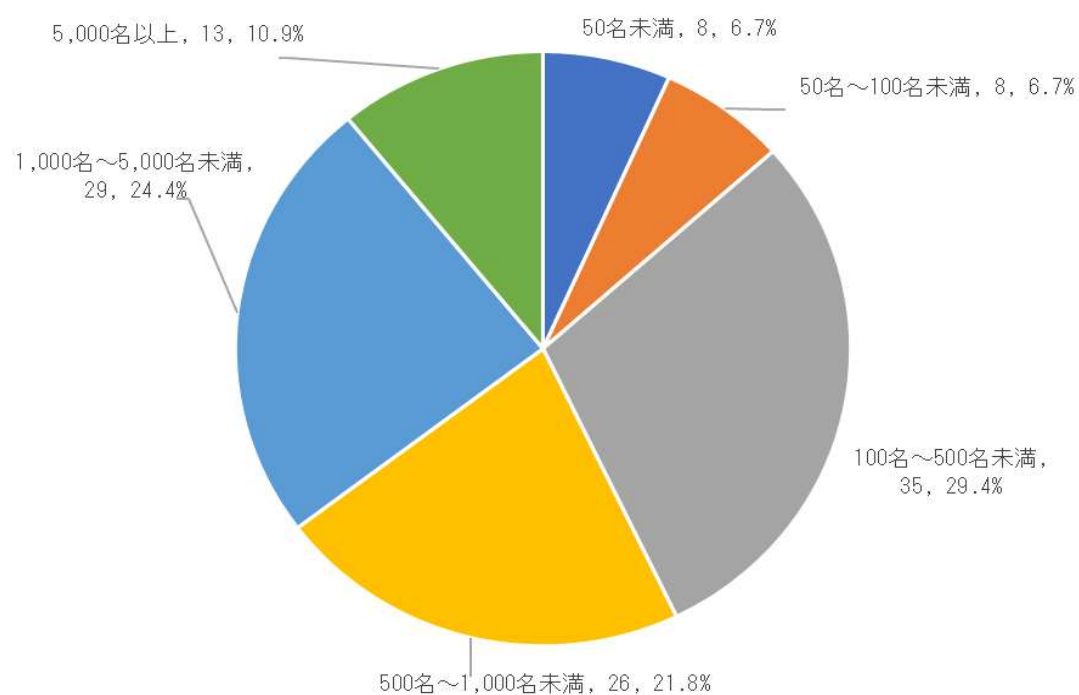
グラフ 業種（Q3）



従業員数の規模「100名～500名未満」の企業・団体が29.4%

Q4の従業員数（正規正社員）についての質問では、回答が多い順に「100名～500名未満」が35件（29.4%）、「1,000名～5,000名未満」が29件（24.4%）、「500名～1,000名未満」が26件（21.8%）、「5,000名以上」が13件（10.9%）、「50名未満、50名～100名未満」が8件（6.7%）となった。

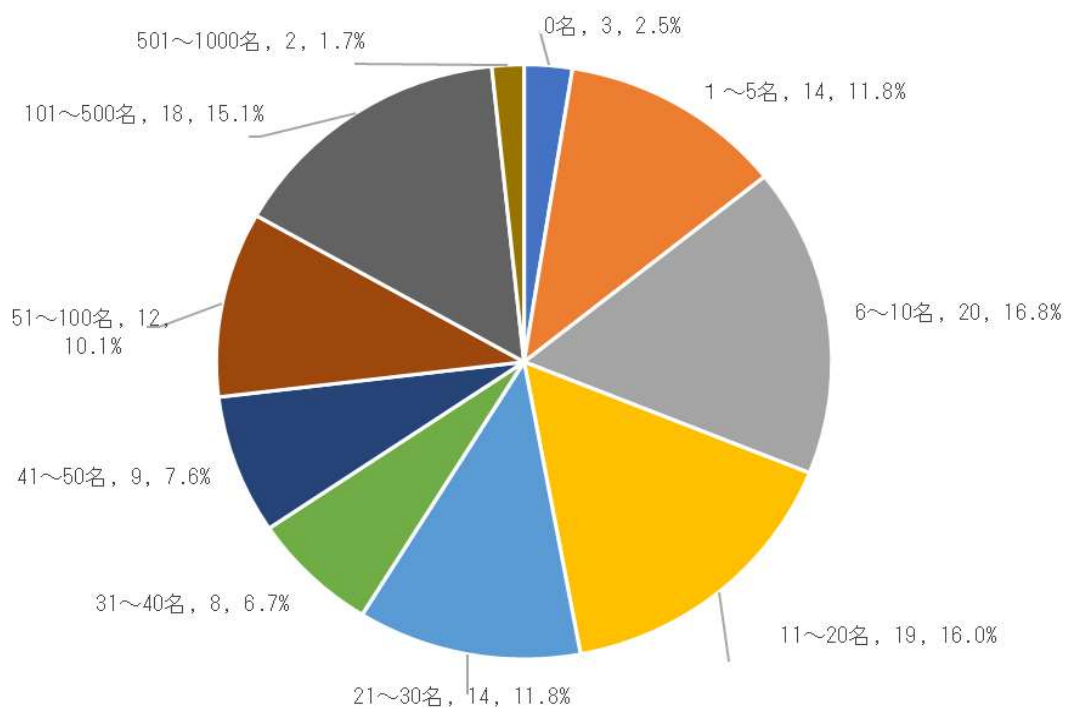
グラフ 従業員数（Q4）



過去3か年の正社員の採用数は「6～10名」が16.8%

Q5の過去3年間の平均的な正規社員の採用数についての質問では、回答が多い順に「6～10名」が20件(16.8%)、「11～20名」が19件(16.0%)、「101～500名」が18件(15.1%)、「1～5名、21～30名」が14件、「51～100名」が12件(10.1%)、「41～50名」が9件(7.6%)、「31～40名」が8件(6.7%)、「0名」が3件(2.5%)、「501～1000名」が2件(1.7%)となった。

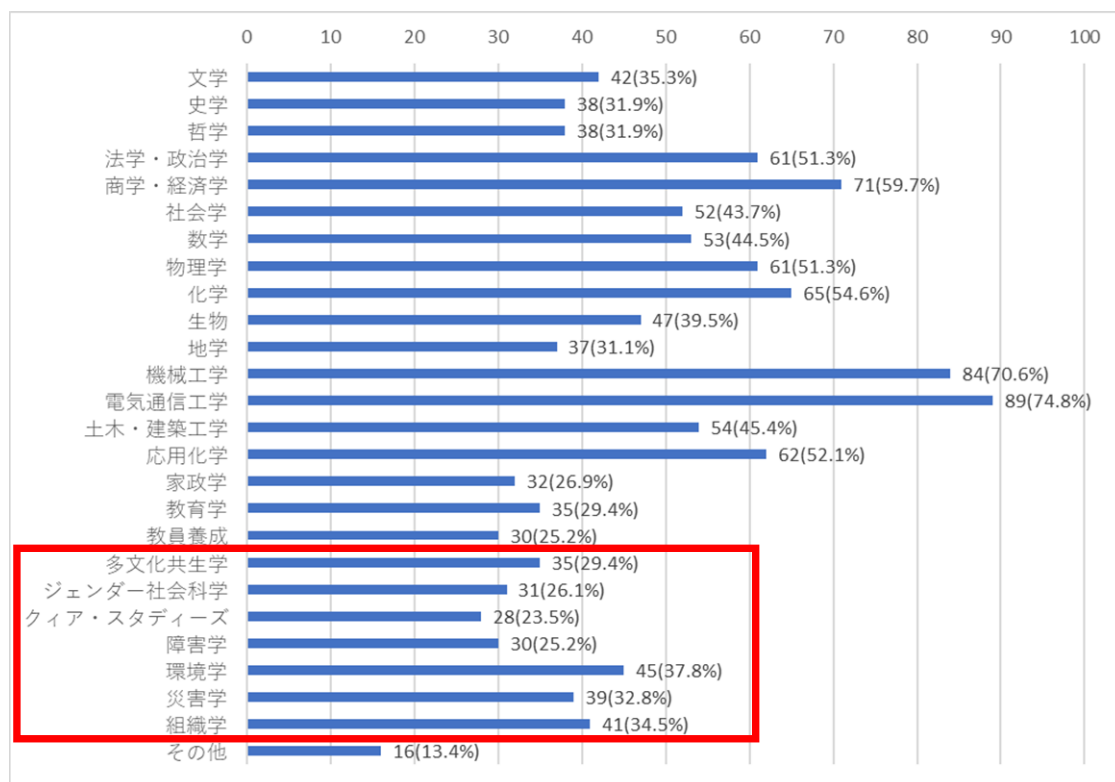
グラフ 過去3か年の正社員の採用数（平均）（Q5）



ダイバーシティ科学に関する学問分野を学んだ人材への採用の意向は249件

Q6の採用したいと考える「学問分野」の質問（複数回答）では、「電気通信工学」が89件（7.3%）と最も多い結果となった。ダイバーシティ科学に深く関連する学問分野では、「多文化共生学」が35件（29.4%）、「ジェンダー社会科学」が31件（26.1%）、「クィア・スタディーズ」が28件（23.5%）、「障害学」が30件（25.2%）、「環境学」が45件（37.8%）、「災害学」が39件（32.8%）、「組織学」が41件（34.5%） 計 249件の回答を得た。

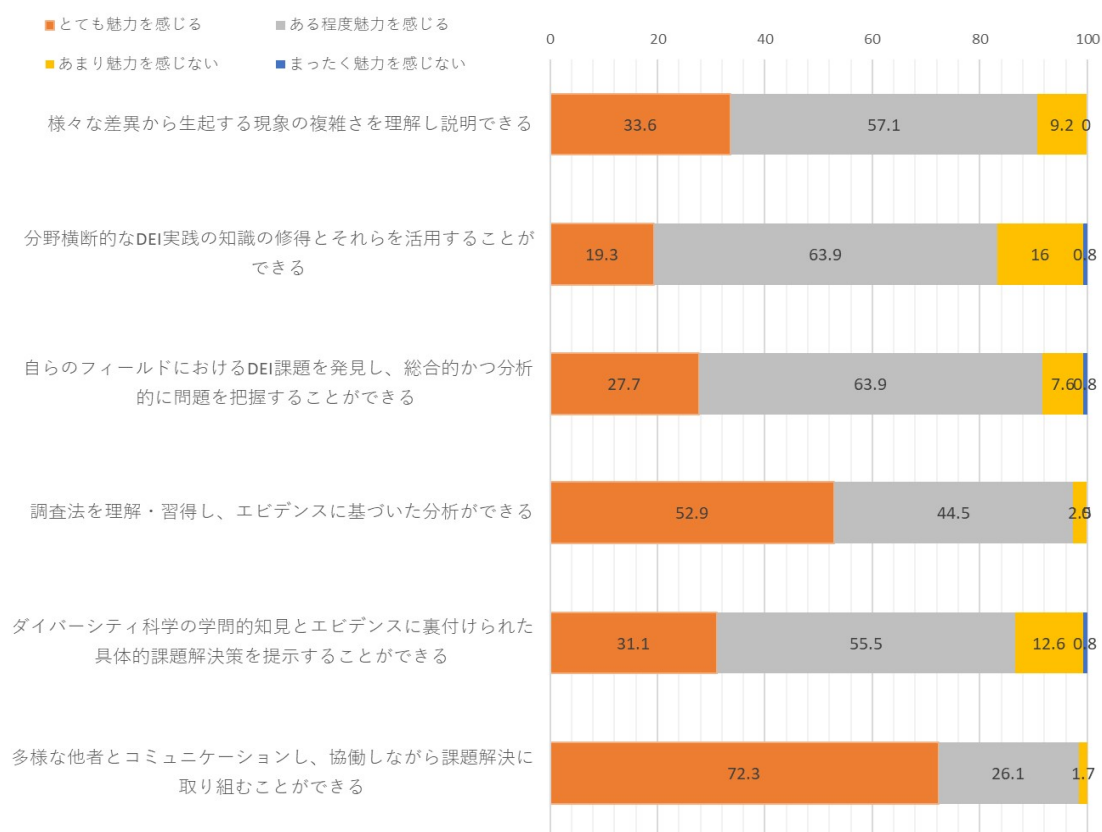
グラフ 学びたいと考えている興味のある学問分野（Q6）



ダイバーシティ科学専攻の特色について魅力を感じる回答者は8割以上

Q7の本専攻の特色についての質問では、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した者が、すべての項目において8割を超える結果となった。

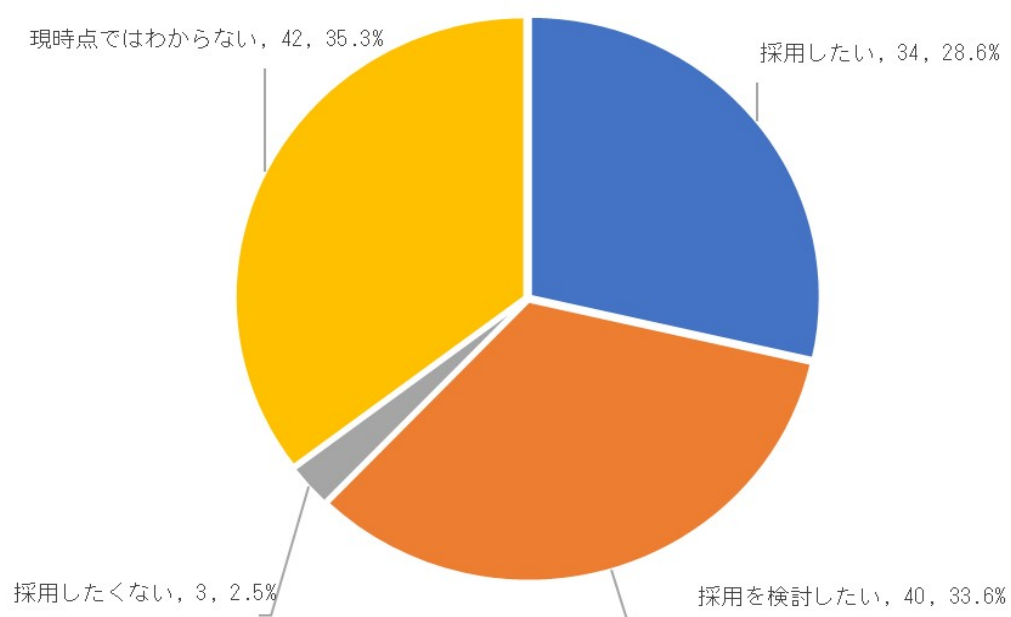
グラフ ダイバーシティ科学専攻において修得する資質・能力について（Q7）



62.2%が採用の意向を示す

Q8の質問では、回答を得た119件のうち「採用したい」が34件（28.6%）、「採用を検討したい」が40件（33.6%）と62.2%が採用の意向を示した。また、「現時点ではわからない」が42件（35.3%）、「採用したくない」が3件（2.5%）であった。

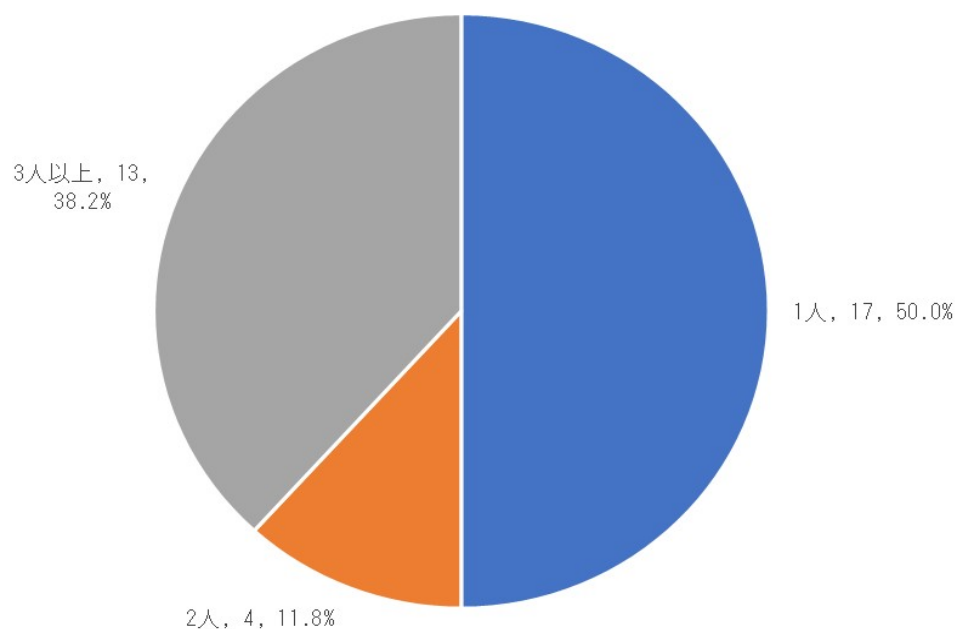
グラフ 採用意向（Q8）



採用可能人数の総和は64人

Q9では、Q8で「採用したい」と回答した34件について、採用可能人数を質問した。その結果、「1人」が17件（50.0%）「2人」が4件（11.8%）、「3人以上」が13件（38.2%）であり、採用可能人数は64人となった。この回答では、ダイバーシティ科学専攻が予定する入学定員10人を大きく上回る結果が得られた。（「3人以上」は3人として集計）

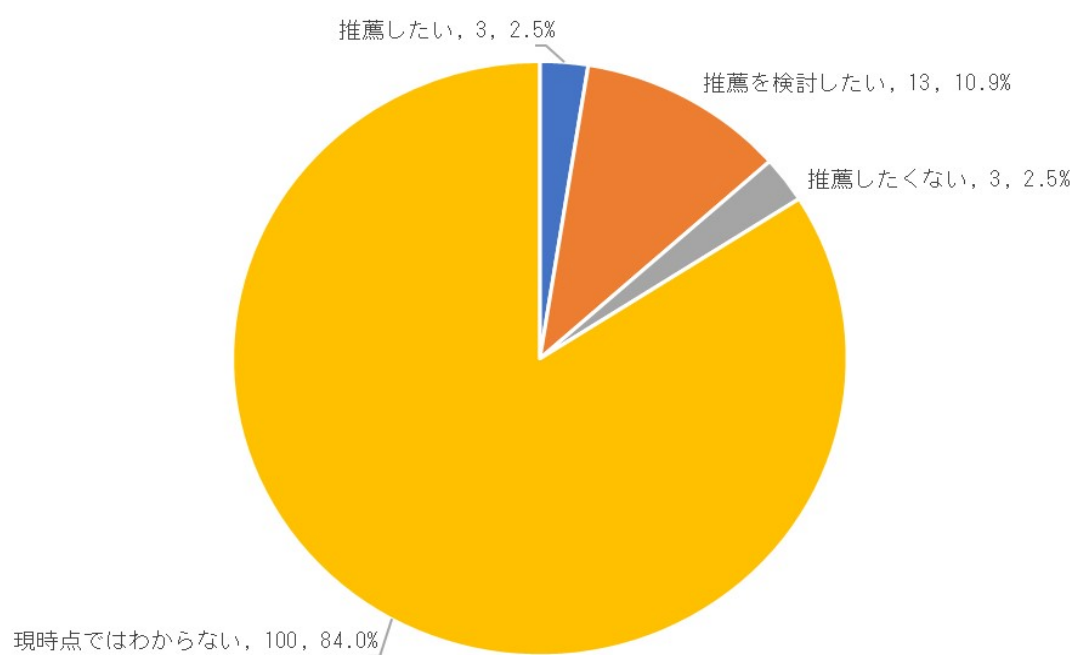
グラフ 採用可能人数（Q9）



13.4%が推薦の意向を示す

Q11では「埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻」への社員の推薦意向をたずね、「推薦したい」が3件（2.5%）、「推薦を検討したい」が13件（10.9%）と13.4%が推薦の意向を示した。また、「現時点ではわからない」が100件（84.0%）、「推薦したくない」が3件（2.5%）であった。

グラフ 推薦意向（Q11）

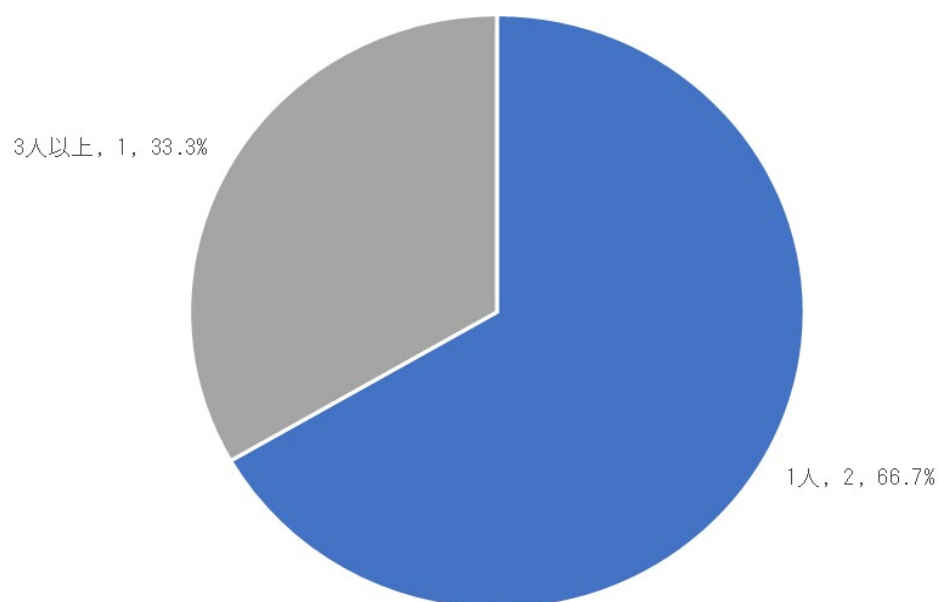


推薦可能人数の総和は5人

Q12では、Q11で「埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻」へ社員を「推薦したい」と回答した3件について、推薦可能人数を質問した。

その結果、「1人」が2件（66.7%）「3人以上」が1件（33.3%）であり、推薦可能人数は5人となった。（「3人以上」は3人として集計）

グラフ 採用可能人数（Q12）

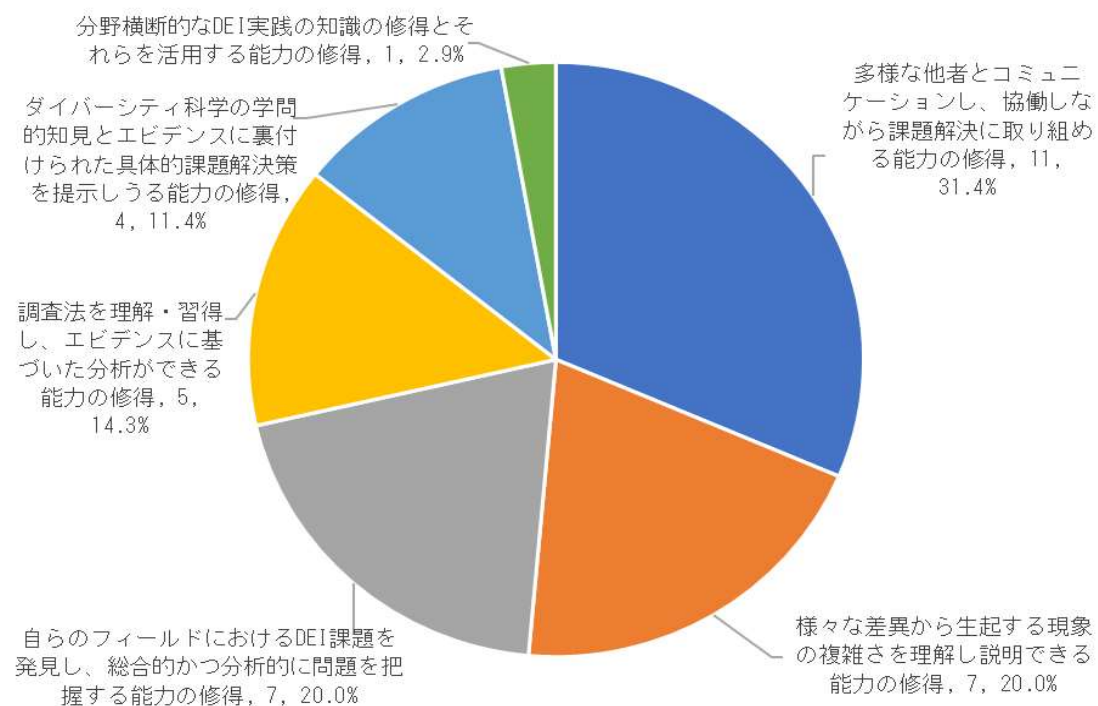


推薦の目的は「多様な他者とコミュニケーションし、協働しながら課題解決に取り組める能力の修得」が31.4%

Q13では、Q11で「埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻」へ社員を「推薦したい」、「推薦を検討したい」と回答した16件について、推薦の目的について質問（複数回答可）した。

その結果、回答が多い順に「多様な他者とコミュニケーションし、協働しながら課題解決に取り組める能力の修得」11件（31.4%）、「様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明できる能力の修得、自らのフィールドにおけるDEI課題を発見し、総合的かつ分析的に問題を把握する能力の修得」が7件（20.2%）、「調査法を理解・習得し、エビデンスに基づいた分析ができる能力の修得」が5件（14.3%）、「ダイバーシティ科学の学問的知見とエビデンスに裏付けられた具体的課題解決策を提示しうる能力の修得」が4件（11.4%）、「分野横断的なDEI実践の知識の修得とそれらを活用する能力の修得」が1件（2.9%）となった。

グラフ 推薦の目的（Q13）

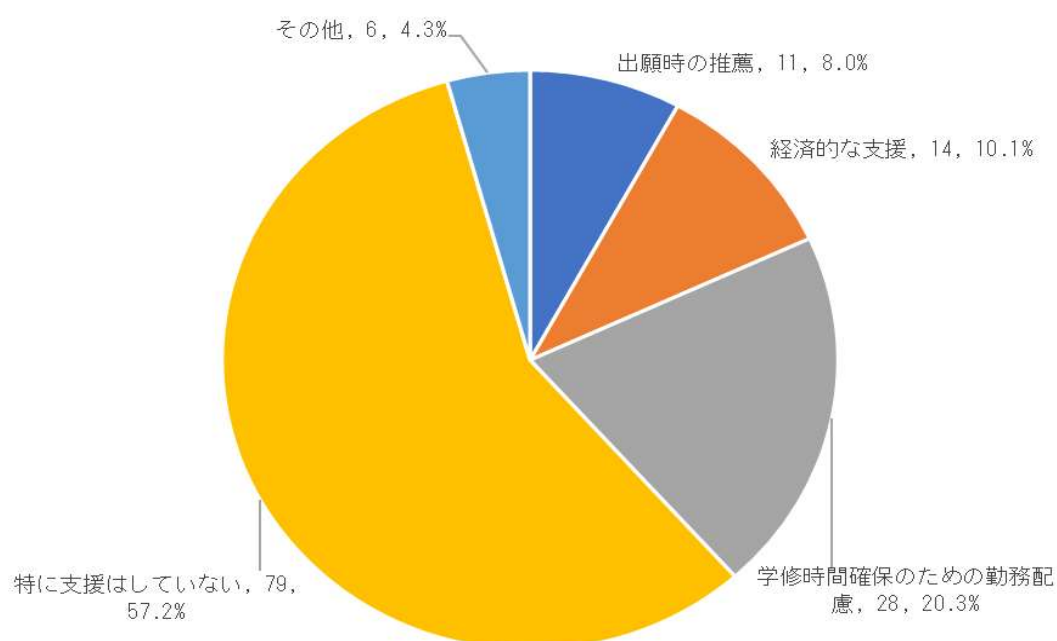


入学する（推薦する）場合の支援は38.4%

Q15では、企業・団体等の社員が大学院に入学する（推薦する）場合の支援について質問（複数回答可）した。

その結果、「出願時の推薦」が11件（8.0%）、「経済的な支援」が14件（10.1%）、「学修時間確保のための勤務配慮」が28件（20.3%）、「その他」が6件（4.3）となり、「特に支援はしていない」が79件（57.2%）との回答であった。

グラフ 社員が大学院に入学する（推薦する）場合の支援（Q15）



添付資料

- 1 埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）
〔仮称・令和8年4月設置構想中〕 アンケート調査
【対象：企業等 人事ご担当者様】

埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻 (修士課程)〔仮称・令和8年4月設置構想中〕 アンケート調査 【対象：企業等 人事ご担当者様】 〃

埼玉大学では、令和8年4月より大学院人文社会科学研究科（修士課程）に「ダイバーシティ科学専攻」(仮称)を新設することを構想しています。

ダイバーシティ科学専攻（仮称）の概要（必ずお読みください。）

<https://www.saitama-u.ac.jp/media/20240909-gaiyo.pdf>

このアンケートは、構想中のダイバーシティ科学専攻（仮称）の設置認可申請書類の一部資料並びに同専攻の内容をより充実したものとするを目的として実施するものであり、得られた情報や回答内容は、統計資料としてのみ利用し、個人を特定することは一切ありません。

つきましては、下記のアンケートにご協力いただきたく、お願い申し上げます。

回答期限：令和6年10月11日（金）23時59分

皆様の忌憚のないご意見をいただきますよう、お願いいたします。

※概要をご確認の上、アンケートにお答えください。

※このアンケート及び概要に記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性があります。

【本件担当】

埼玉大学研究・連携推進部

産学官連携・ダイバーシティ推進課

ダイバーシティ科学研究科設置準備室

* 必須

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度について、該当するもの1つを選択してください。*

- ☐ 採用の決裁権があり、選考に関わっている
- ☐ 採用の決裁権はないが、選考に関わっている
- ☐ 採用には直接かわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある。

2. 貴社・貴団体の本社（本部）所在地について、都道府県名を選択してください。*

- ☐ 北海道
- ☐ 青森県
- ☐ 岩手県
- ☐ 宮城県
- ☐ 秋田県
- ☐ 山形県
- ☐ 福島県
- ☐ 群馬県
- ☐ 栃木県
- ☐ 茨城県
- ☐ 埼玉県
- ☐ 千葉県
- ☐ 東京都
- ☐ 神奈川県
- ☐ 新潟県
- ☐ 富山県
- ☐ 石川県
- ☐ 福井県
- ☐ 山梨県
- ☐ 長野県
- ☐ 岐阜県
- ☐ 静岡県
- ☐ 愛知県
- ☐ 三重県
- ☐ 滋賀県
- ☐ 京都府
- ☐ 大阪府
- ☐ 兵庫県
- ☐ 奈良県
- ☐ 和歌山県

- ☐ 鳥取県
- ☐ 島根県
- ☐ 岡山県
- ☐ 広島県
- ☐ 山口県
- ☐ 徳島県
- ☐ 香川県
- ☐ 愛媛県
- ☐ 高知県
- ☐ 福岡県
- ☐ 佐賀県
- ☐ 長崎県
- ☐ 熊本県
- ☐ 大分県
- ☐ 宮崎県
- ☐ 鹿児島県
- ☐ 沖縄県

3. 貴社・貴団体の業種について、該当するもの1つを選択してください。*

- ☐ 農業、林業
- ☐ 漁業
- ☐ 鉱業
- ☐ 建設業
- ☐ 製造業
- ☐ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 情報通信業
- ☐ 運輸業、郵便業
- ☐ 卸売業、小売業
- ☐ 金融業、保険業
- ☐ 不動産業
- ☐ 学術研究、専門・技術サービス業
- ☐ 宿泊業、飲食サービス業
- ☐ 生活関連サービス業、娯楽業
- ☐ 教育、学習支援業
- ☐ 医療、福祉
- ☐ 複合サービス事業
- ☐ サービス業（他に分類されないもの）
- ☐ 公務
- ☐ その他

4. 貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、該当するもの1つを選択してください。*

- ☐ 50名未満
- ☐ 50名～100名未満
- ☐ 100名～500名未満
- ☐ 500名～1,000名未満
- ☐ 1,000名～5,000名未満
- ☐ 5,000名以上

5. 貴社・貴団体の過去 3 年間の平均的な正社員の採用数について、お教えてください。*

値は数値にする必要があります

6.

貴社・貴団体では、どのような学問分野で学んだ人を採用したいとお考えですか。該当するものすべてを選択してください。（複数選択可） *

- ☐ 文学
- ☐ 史学
- ☐ 哲学
- ☐ 法学・政治学
- ☐ 商学・経済学
- ☐ 社会学
- ☐ 数学
- ☐ 物理学
- ☐ 化学
- ☐ 生物
- ☐ 地学
- ☐ 機械工学
- ☐ 電気通信工学
- ☐ 土木・建築工学
- ☐ 応用化学
- ☐ 家政学
- ☐ 教育学
- ☐ 教員養成
- ☐ 多文化共生学
- ☐ ジェンダー社会科学
- ☐ クリア・スタディーズ
- ☐ 障害学
- ☐ 環境学
- ☐ 災害学
- ☐ 組織学
- ☐ その他

これからは、ダイバーシティ科学専攻（仮称）の概要をご覧いただいた上でお答えください。

概要： <https://www.saitama-u.ac.jp/media/20240909-gaiyo.pdf>

7. 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）には、以下のような資質・能力の修得を目指します。それぞれの資質・能力について、貴社・貴団体（ご回答者様）の求める人材像と照らし合わせて、どの程度魅力を感じますか。該当するもの1つを選択してください。*

	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明できる	☐	☐	☐	☐
分野横断的なDEI実践の知識の修得とそれらを活用することができる	☐	☐	☐	☐
自らのフィールドにおけるDEI課題を発見し、総合的かつ分析的に問題を把握することができる	☐	☐	☐	☐
調査法を理解・習得し、エビデンスに基づいた分析ができる	☐	☐	☐	☐
ダイバーシティ科学の学問的知見とエビデンスに裏付けられた具体的課題解決策を提示することができる	☐	☐	☐	☐
多様な他者とコミュニケーションし、協働しながら課題解決に取り組むことができる	☐	☐	☐	☐

8. 貴社・貴団体（ご回答者様）は、「ダイバーシティ科学専攻」を修了した学生（令和10年3月修了予定者）について、採用したいと思いますか。
該当するもの1つを選択してください。*

- ☐ 採用したい
- ☐ 採用を検討したい
- ☐ 採用したくない
- ☐ 現時点ではわからない

9. 「採用したい」を選択した方に質問です。現時点で採用可能と思われる人数は何人ですか。*

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上

10. 「採用したくない」を選択した方に質問です。どのようなことでも構いませんので、理由をご記入ください。*

11. 貴社・貴団体（ご回答者様）は、社員の研修の一環として「埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻」に社員を推薦（社会人推薦入試制度を利用）したいと思いませんか。該当するもの1つを選択してください。*

- ☐ 推薦したい
- ☐ 推薦を検討したい
- ☐ 推薦したくない
- ☐ 現時点ではわからない

12. 「推薦したい」を選択した方に質問です。現時点で推薦可能と思われる人数は何人ですか。*

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上

13. 「推薦したい」「推薦を検討したい」を選択した方に質問です。推薦の目的は、どのようなものですか。（複数選択可）*

- ☐ 様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明できる能力の修得
- ☐ 分野横断的なDEI実践の知識の修得とそれらを活用する能力の修得
- ☐ 自らのフィールドにおけるDEI課題を発見し、総合的かつ分析的に問題を把握する能力の修得
- ☐ 調査法を理解・習得し、エビデンスに基づいた分析ができる能力の修得
- ☐ ダイバーシティ科学の学問的知見とエビデンスに裏付けられた具体的課題解決策を提示しうる能力の修得の修得
- ☐ 多様な他者とコミュニケーションし、協働しながら課題解決に取り組める能力の修得
- ☐ その他

14. 「推薦したくない」を選択した方に質問です。どのようなことでも構いませんので、理由をご記入ください。*

15. 貴社・貴団体の社員が大学院に入学する（推薦する）場合、貴社・貴団体（ご回答者様）として実施されている支援がありましたら、お教えてください。
該当するものすべてを選択してください。（複数選択可） *

- ☐ 出願時の推薦
- ☐ 経済的な支援
- ☐ 学修時間確保のための勤務配慮
- ☐ 特に支援はしていない
- ☐ その他

16. 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（仮称）について、もっと知りたいことやご意見・ご要望などがあれば、どのようなことでも構いませんので、ご自由にお書きください。

17. 最後に、貴社・貴機関名をお教えてください。なお、こちらはどの企業・団体から回答頂いたかを把握するためにお伺いするものです。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として外部に公表されることはありません。 *

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

埼玉大学大学院人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）〔仮称、令和 8 年 4 月設置構想中〕

名称	埼玉大学大学院 人文社会科学研究科ダイバーシティ科学専攻（修士課程）		
標準修業年限	2		
授与学位	修士（学術）	入学定員	10 名
設置の理念	社会の仕組みが多様化・複雑化し不確実性やリスクが増している現代では、大学学部レベルの基礎的な専門性に加え、DEI（多様性・公平性・包摂性（以下、「DEI」））の観点を持って現代社会が内包する諸課題を発見し、その課題の解決に向けて他者と協働・実践できる人材が必要である。 このため、人文・社会・教育・自然科学等の学部教育レベルにおけるディシプリン（専門基礎）を持った学生に対し、ダイバーシティ（多様性）についての広く深い高度な知識を基盤に、学問分野における課題の評価・解決を実践する方法を修得する教育課程を提供することを目的として、人文社会科学研究科にダイバーシティ科学専攻を設置する。		
育成する人材像	多様な視点を持つことの重要性を理解し、社会の安定的発展に貢献し、そこに生きる人々の幸福に寄与することができるよう、国、自治体、学校、企業、医療・福祉現場、調査研究機関、NGO・NPO などの場で、DEI の視点から具体的課題を見だし、他者と協働して解決を実践できる高度職業人を育成する。		
アドミッション・ポリシー	あらゆる場で DEI の視点を持ち、DEI に基づいた実践を展開できる専門家の養成を目指す本専攻では、入学時に必要な素質・能力として以下の意欲や基礎的な知識・能力を求める。 1. 学部専門レベルの学知を DEI の観点からさらに探求することを志す人 2. 社会生活における諸問題を、DEI の観点から理解し、その実践的解決を目指す人 3. 地方自治体、学校、医療・福祉、企業などの現場で働き、DEI の視点からそこの課題解決を目指す人 4. DEI 実践の創造に関する高度な知見を修得して、企業や自治体、学校や福祉に関わる現場で活躍すること、および研究者を目指す人		
ディプロマ・ポリシー	所定の教育課程を修め、学位論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者に修士（学際）の学位を授与する。 1. 様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明できる能力 2. 分野横断的な DEI 実践の知識の修得とそれらを活用する能力 3. 自らのフィールドにおける DEI 課題を発見し、総合的かつ分析的に問題を把握する能力 4. 調査法を理解・習得し、エビデンスに基づいた分析ができる能力 5. ダイバーシティ科学の学問的知見とエビデンスに裏付けられた具体的課題解決策を提示しうる能力 6. 多様な他者とコミュニケーションし、協働しながら課題解決に取り組める能力		
ダイバーシティ科学とは	多様性に関する諸問題を研究する学問であり、社会科学、自然科学、人文学、法学、教育学など、様々な学問分野と交差する。多様性とは何かを理解し、多様な差異が差別や格差に結びついてきた歴史と社会構造を明らかにし、あらゆる学問・研究領域に DEI の視点を持ち込むことで、既存の学問・研究の新たな展開と進歩を促し、より豊かで包摂的な社会や組織を築くことを目指す学際的な教育・研究である。		

カリキュラムの特色	①基盤理論科目 様々な差異から生起する現象の複雑さを理解し説明する方法を獲得するための基礎理論をトータルに学修する。 ②基礎課題科目 政治・法、教育、医療・福祉、経済、労働、科学技術、環境等の様々な分野・領域において、DEI の視点から、これまでどのような課題が提起され、どのような DEI 実現の実践がなされてきたのかを探究することによって、自らの学問領域・研究分野、社会、文化、個別環境における課題発見につなげる応用力を育む。 ③調査スキル科目 実践学としてのダイバーシティ科学における課題の抽出とその分析、解決策の探究において必須の調査スキルを修得する。 ④専門課題科目 学生の課題意識の深化と研究課題の明確化、その課題の具体的な解決を図るための方策を探究し、修士論文作成及び特定課題レポートの基礎とする。 ⑤課題研究科目 それぞれの専門分野における DEI 課題の探究・研究課題を明確にし、研究成果を修士論文、特定課題レポートにまとめていく。本専攻指導教員と大学院生の専門領域の副指導教員とが連携を図りながら、論文作成等に必要なスキルの修得に向けた研究指導を行い、修士論文、特定課題レポートの完成を目指す。
学生納付金	<入学料> 282,000 円 (予定額) <授業料> 535,800 円/年 (予定額) ※長期履修学生制度あり 長期履修学生制度とは、職業を有している、家事・育児・介護をしている等の事情により、標準修業年限（2 年）を超えて一定の期間（最長 4 年）内で計画的にカリキュラムを履修することにより修了することができる制度である。審査の結果、この制度に適用となった者は、認められた修了期間までに標準修業年限分の授業料を毎年納める。
設置場所 (アクセス)	<設置場所> 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255 <アクセス> ・JR 京浜東北線「北浦和駅」西口下車→バス「埼玉大学」ゆき（終点） ・JR 埼京線「南与野駅」下車→北入口バス停から「埼玉大学」ゆき（終点） ・JR 埼京線「南与野駅」下車→西口バス停から全ての便が埼玉大学を経由します ・東武東上線「志木駅」東口下車→バス「南与野駅西口」ゆき（「埼玉大学」下車）
類似する大学院 及び専攻	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科ジェンダー社会科学専攻（博士前期課程）

*** 上記の内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性があります。**